

家計費が總體として小さくなればなる程、その中の食費の割合が相對的に大きくなるといふ法則を考へ合せますとこれ等の農家の生計状態が餘り良好でないことを示してゐるやうであります。岡山縣上道郡の某村、眞庭郡の某町及び鳥取縣の某村の三ヶ町村では、副食物を主要購入品としてゐる農家が最も多くの戸數を占めてゐるので、それから生活必需品である調味料の二十五戸は記入が少な過ぎるやうであります。これは調味料が家計の中で主な位置を占めてゐる農家が少いといふよりも、寧ろ調味料を自給してゐる農家が割合に多いことを示してゐるものと見るべきでせう。醫藥の十八戸は全部岡山縣の農家であります。日用品を記入した農家十六戸のうち十五戸の農家は全然副食物を記入してゐない農家であり、この日用品といふのは或は副食物を含んでゐるのではないかと思はれます。例へば、岡山縣赤磐郡某村（一戸當り平均耕作面積七・六反歩）では副食物を記入した農家が一戸も無く、日用品と記入した農家が九戸を占めてゐるのであります（調査農家十戸）。酒の十一戸は岡山縣眞庭郡某町の六戸と鳥取縣某村の五戸とであります。岡山縣の某町では酒を主要な購入品としてゐる農家が副食物（乾物）と並んで最も多くの戸數を占めてをります。飯米の八戸は、前に米を購入する農家が二十九戸もあつたことと比べると如何にも少ないやうであります。この八戸以外の農家は飯米を主要な購入品としてゐないのでありませう。この八戸のうち六戸は前記岡山縣赤磐郡某村であります。

これ等の品目に就て、金額の大きなものゝ順位別戸數を示しますと次のやうになつてをります。

家事用購入品の順位別戸數

衣類	計			副食物	計		
	第一位 二五戸	第二位 二一戸	第三位 一〇戸		第一位 二二戸	第二位 一二戸	第三位 六戸
調味料	六	八	一一	飯米	六	二	一
醫藥	一	三	一五	家具	一	二	三
日用品	三	一〇	三	煙草	一	三	一
酒	五	四	二	計	七〇	六七	五六
薪炭	二	二	六				(延戸數)
							一九三

即ち、回答農家七十戸のうち衣類を最も重要な第一位の購入品としてゐる農家が二十五戸あり、それに續いて副食物の二十二戸となつてをるのであります。衣類と副食物を第一位の購入品としてゐるものが全回答農家の六割七分を占めてをります。衣類、副食物以外で特に目を惹くものは飯米を最も重要な購入品としてゐる六戸と、酒を最も重要な購入品としてゐる五戸であります。飯米の六戸のうち五戸は前記岡山縣赤磐郡某村の農家であり、その他の品目の夫々の地位に就いては表によつて推察されたい。

それから購入方法に就て申しますと、こゝでは何れの品目に就ても亦地域別に見ましても殆んど統一がなく、大部分商人から購入してゐるのであります。その中でもやゝ統制が行はれてゐると思はれるのは鳥取縣の某村だけで、そこでは酒、調味料、雜貨が産業組合の中の購買組合から購入されてをります。岡山縣は前にも見ましたやうに、販賣にも購買にも何等統制らしいものが見當らなかつたので、ここで統制がとれてゐないのは別に不思議ありませんが、鳥取縣のやうに販賣に相當良好な成績を擧げてゐたところでも家事用品の購入では統制が誠に微々たるものでありまして、この方面に於ける共同の組織化が如何に困難であるかよく窺はれるのであります。

物價値上りの經驗 購入の際の値上り經驗から見て行きますと、こゝでの回答農家は六十五戸であります。そして、どういふ品物を買つた時に經驗したかを見ますと、流石に肥料による經驗が最も多くて二十五戸を占めてをりますが、詳細は左の如くであります。

物價高經驗農家の品目別戸數(購入)

肥料	二五戸	ゴム靴	二戸	鐵	一戸
マッチ	八	米	二	銚	一
釘	七	花菱機械	一	砂	一
石油	六	醬油	一	糖	一
地下足袋	五	豆腐	一	計	六五
下駄	三	馬	一		

右によりますと、回答農家六十五戸のうち肥料による經驗の二十五戸を除いた他の四十戸は種々雑多な品物によつて物價値上りを經驗してゐるのでありますが、これ等の品物を農業用品と非農業用品に分けてその戸數を見ますと、農業用品による經驗は、肥料の二十五戸を筆頭に石油の六戸、地下足袋の五戸、花菱機械、馬の各一戸で計三十八戸となつてをり、非農業用品による經驗はマッチの八戸、釘の七戸、下駄の三戸、ゴム靴の二戸、米の二戸、豆腐、鐵、銚、砂糖の各一戸で計二十七戸となつてをりまして、農業用品によつて物價値上りを經驗した農家の方が遙かに多いのであります。これは農家として當然のことであり、農家の關心が強く農業用品の價格變動に向けられてゐることを示すものであります。それから、かう言つては多少言ひ過ぎになるかも知れませんが、非農業用品によつて物價高を感じた農家には可成り直感的なものが感じられ、これに對して農業用品による經驗を記入した農家には感受性の堅實さが見られるやうに思ふのです。が、何れにしましても、右に挙げられた品物の價格が騰貴してゐることは充分察知出来るのでありまして、この意味では品物が盛澤山に記入されたことも決して無駄ではないのであります。騰貴率は同一物品に就てもまち／＼でありませんが、大體肥料は三割乃至四割、地下足袋、ゴム靴、花菱機械が大體五割、最も騰貴の甚だしいのは馬及び鐵の十割等であります。尙、肥料による經驗農家二十五戸を肥料の種類別に分けて見ますと、單に肥料とのみ記したものが九戸、大豆粕八戸、硫酸五戸、綿實粕二戸、アンモニア一戸となつてをります。それから更に地域別に見ますと、岡山縣の農家では概して肥料による經驗が少なく、例へば、眞庭郡某町の農家では肥料による經驗農家が一戸も無く、淺口郡の某村及び上道郡の某村は何れも一戸宛、赤磐郡の某村も三戸だけでありまして、經驗農家二十五戸のうち岡山縣は十二戸、鳥取縣十三戸といふ勘定になつてをります。

次に、このやうな物價値上りの經驗が何時頃であつたかを見ますと、左の如く、五月に經驗した農家が最も多くなつてゐるのであります。

物價高經驗農家の月別戸數(購入)

一月	七戸	五月	一四戸	九月	一戸
二月	六	六月	六	十月	一
三月	九	七月	八	十一月	五
四月	五	八月	二	十二月	一
一八五					

地區別調査集計の結果(中國)

五月に次いで多いのは三月の九戸、七月の八戸、一月の七戸、二、六月の各六戸、四、十一月の各五戸以下表の通りであります。五月に特に多いのは肥料の六戸と石油の五戸の爲であります。そして三月の九戸のうち八戸迄は肥料の経験でありますし。七月の八戸のうちでは肥料の三戸と下駄の二戸が目立つてをります。一月の七戸のうちには肥料が全く無く、ゴム靴の二戸、釘の二戸が目立つてをります。六月の六戸のうち三戸はマッチで他は地下足袋、米、石油の各一戸でありまして肥料は一戸もありません。二月は六戸のうち五戸迄が肥料による経験であります。四月の五戸のうち三戸は釘による経験でありますし、十一月の五戸のうち地下足袋による経験農家が三戸あります。それから、肥料による経験の二十五戸を月別に致しますと次のやうになつてをりまして、大體一年の前半に購入されてゐることが判るのであります。

肥料による物價高経験農家の月別戸數

二月	五月	五月	六月	十二月	一月
三月	八月	七月	三月	計	二五
四月	一月	八月	一月		

更に、販賣の際に於ける物價値上りの経験に就て見ますと、こゝでの回答農家はぐつと減つて四十六戸になつてをります。岡山縣淺口郡の某村の如きは値上りの経験ありとの記入農家が一戸も無く、中に自作一戸の如きは逆に八月——蘭草——六割の値下りと記して來てゐる始末であります。この村は蘭草を主産物としてゐる村

でありますから、その影響は少なからぬものがあらうと思はれます。兎も角、値上りを経験した品目に就てその記入戸數を見ますなら次のやうになつてをります。

物價高経験農家の品目別戸數 (販賣)

麥	一九戸	菓	二戸	米	一戸
繭	九	菜種	二	計	四六
繩	六	瓜	一		
古金	五	馬	一		

つまり、麥の販賣の際に値上りを経験した農家が一番多くて十九戸、続いて繭の九戸、繩の六戸、以下順に表示の通りになつてをります。麥や繭の戸數の多いのは、何れの地方でもさうでありませうが、調査の時期に密接な關係を持つてをります。そして、繭を記入した九戸の農家は全部鳥取縣某村の農家であります。繩の六戸は何れも岡山縣赤磐郡某村の農家でありまして、この村では回答農家の全部が繩を記入してゐるのであります。耕地が狭小なために副業の繩製造が目立つのであらうと思はれます。古金の五戸も全部岡山縣淺口郡某村の農家でありまして、農産關係外の古金の値上りを記入してゐるのは一寸注目させられますが、或は農具の古いものでもありませうか。尙、米に就ての値上りを経験した農家は僅か一戸であります。これはこの時期の殊に夏場には最早販賣する米を持つてゐるものが甚だ少いことを示すものでせう。販賣物の騰貴率ではつきりしてをります。は、麥の一割乃至二割、馬の五割だけあります。この明記されてゐるものだけから推しても、農家が販賣する際の値上りよりも購入する際の値上りの方が遙かに大きいことが察せられます。特に同一の馬に就て、購入の

際の値上り十割、販賣の際の値上り五割と記されてをることは、この間の事情を最もよく物語つてをると思はれます。

それから、値上りを経験した農家に就てその月別戸数を見ますと、次のやうに五月、七月に経験した農家が最も多く、次いで六月、八月の順になつてをりますが詳細は左の通りであります。

物價高經驗農家の月別戸數(販賣)

一月	一月	五月	五月	八月	七月
二月	一月	六月	六月	計	八月
三月	二月	七月	七月	四六	七月
四月	二月	八月	八月	一三	

大體、經驗の時期が五月から八月の間に纏つてをりますのは、前にも觸れましたやうに調査票の配布された時期に關聯して考へられますが、單にそればかりでなく、値上りを経験した品物が主として麥や繭であることによつても判りませう。試みに經驗農家の多い五月、六月、七月、八月の各月に就て品目別戸数を見ますと(括弧内は記入戸數)次のやうになつてをります。

五月	麥 (六)	古金 (三)	繭 (二)	米 (一)	菜種 (一)
六月	繭 (七)	麥 (二)			
七月	麥 (八)	繩 (四)	瓜 (一)		
八月	麥 (三)	繩 (二)	馬 (一)	菜種 (一)	

物價値上りの苦痛

物價値上りの苦痛では、値上りで現在最も困つてゐるものと今後騰貴されては最も困るものに分けて訊ねたのでありますが、現在のところでは回答戸數六十九戸、今後のところでは六十八戸になつてをります。先づ、現在最も困つてゐるものから見て行きますと、流石に肥料が壓倒的に多くて五十九戸、その他のものは僅か十戸だけでありまして詳しくは(括弧内は記入戸數)左の通りであります。

肥料(五九)、日用品(四)、米(三)、飼料(一)、石油(一)、乾物(一)

即ち、肥料を除いた残りでは日用品の四戸と米の三戸がやゝ目につく程度です。日用品の四戸のうち三戸は岡山縣赤磐郡某村の農家で何れも耕作面積の非常に狭い農家であります。このやうな小農にとつては、肥料の値上りよりも日用品の値上りの方がより多く苦痛であることを示します。米の値上りで困るといふ農家三戸のうち二戸は純小作農で、他の一戸は耕作面積が四反歩餘の小農であります。飼料の一戸は岡山縣淺口郡某村の自小作農であります。この農家の主要生産物に鶏卵がありますので飼料を記したものだと思はれます。石油の一戸は岡山縣上道郡某村の自小作農であります。どうして石油を記入したのか理由は明記されてをりません。乾物の一戸も岡山縣眞庭郡某町の小作農であります。これも耕作面積の狭い農家であります。

續いて今後のところも現在のところと餘り大差はありません。回答農家六十八戸のうち肥料と記したものが五十八戸で、それに次いで日用品の七戸となつてをります。品目別に記入戸数を示しますと(括弧内は記入戸數)左の通りです。

肥料(五八)、日用品(七)、米(二)、その他(一)

こゝで、日用品が現在のところよりも三戸増加してゐるのは、前記岡山縣赤磐郡の某村で日用品と記した農家が六戸になつたためであります。

この村では、現在のところでは肥料七戸、日用品三戸でありましたが、今後のところでは肥料三戸、日用品六戸となつてゐるのであります。このやうな小農では直接日用品の値上りが如何に苦痛であるか、判るのです。その他は諸物價と記されたものであり、尙、現在のところでも今後のところでも肥料は過燐酸、硫安と明記されたものが多いのであります。

物價高の切抜け方法 先づ最初に、現在どうして物價高を切抜けてゐるかに就て見ますと、回答農家は七十戸でその切抜け方法の項目別累計は八十七件となつてをります。今、切抜け方法の項目別に記入戸數を示しますと次のやうになります。

節約	三二戸	自給肥料で	一戸
借金	二五	豫算生活	一
小作料關係	一三	自給自足	一
延納	二	策なし及び不明	五
引下げ	二	計(延戸數)	八七
賃労働	五		
貯金を引出して	二		

つまり、七十戸のうち約半數の三十二戸の農家が甚だ消極的な節約によつて當座を凌いでゐるのであります。

借金で切抜けてゐるものも全農家の約三分の一に當る二十五戸ありますが、これも節約と同じく消極的な切抜け方法です。この借金で切抜けてゐる農家を自、小作別に見ますと小作及び其他農家は割合に少なく、主として自作及び自小作であります。これは小作や其他農家には現に借金能力が甚だ薄れてゐることを示すのではありますまいか。そして、小作料關係では小作料を延納してといふ農家が十三戸、小作料を引下げてといふのが二戸で計十五戸となつてをりますが、小作料延納は「小作料の喰ひ込み」といふ言葉で表現されてをります。この小作料關係の記入は岡山縣には非常に少なく、小作料を引下げてといふ眞庭郡某町の農家一戸だけでありまして、他の四戸は全部鳥取縣の農家であります。それから賃労働の五戸になりますと、鳥取縣の農家は僅かに一戸で、他の四戸は岡山縣の農家であります。この岡山縣の四戸は全く赤磐郡某村の農家でありまして、この村の農家が非常に耕作面積の狭い農家であつたことが斯うした點にも現はれてゐるのであります。貯金を引出してといふ二戸の農家は何れも岡山縣上道郡某村の自小作農であります。何れも耕作面積が相當に廣い農家であるところから見て比較的餘裕のある農家であらうと思はれます。農業經營に直接關係のある方法は、僅かに自給肥料でといふ一戸だけあります。肥料値上りの苦痛を訴へてゐた農家が非常に多かつたのに比べて、この方面の考慮の少いのは寧ろ意外な位であります。豫算生活、自給自足でといふ農家も前記上道郡某村の農家で前者は自小作、後者は小作であります。その意味するところは餘り明確ではありません。要するに、現在では節約と借金が壓倒的に多いのであります。その切抜け方法は如何にも消極的のやうであります。

次に、今後はどうして切抜けて行くつもりかといふことですが、回答農家は現在のところと同じく七十戸で、

その切抜け方法の累計は八十件で現在のところより七件減少してをります。切抜け方法別に農家戸数を見ますと次のやうになつてをります。

切抜け方法別農家戸數(今後)	
節約	二八戸
小作料關係	七
引下げ	七
延納	五
賃勞	七
借金	六
肥料節減	三
自給肥料	一
組合により	三
滿收入で	二
計(延戸數)	八〇
醫藥を用ひぬ	一戸
税金、日用品の引下げ	一
田地を賣つて	一
貯金を引出して	一
賣り喰ひ	一
雜收入	一
策なし及び不明	一三

今後も矢張り節約でやつて行かうといふものが一番多くて二十八戸、次いで多いのは小作料關係で小作料を引下げてといふのが七戸、延納が五戸であります。それから賃勞働の七戸、借金の六戸となつてをりまして、以下表の通りであります。この今後の方法を前に見た現在の方法と比較してみますと、その間自から農家の意向の推移が窺はれて興味深いものがあります。即ち、節約は三十二戸から二十八戸に減じてゐるのであります、これは最早今後に於ては節約のやうな消極的な方法では到底物價高を切抜けることが出來ないであらうことを物語ると思ひます。借金も二十五戸から六戸に激減してゐるのであります、これも今後はより以上の借金能力の無い

のを農家自身が強く感じてゐるものと考へられます。小作料關係は全體としては十五戸から十二戸に減じてをりますが、その内容を見ますと延納といふのが十三戸から五戸に減じ、引下げといふのが逆に二戸から七戸に増加してをります。其他の項目で減少してをりますのは、貯金を引出してといふのが二戸から一戸へであります。そして、今後の方で増加してゐるのは前記小作料引下げの二戸から七戸へと、賃勞働の五戸から七戸へであります。それから特に目立つて増加してをりますのは「策なし及び不明」の五戸から十三戸へでありまして農家の拱手傍觀の様が見えるやうであります。尙、自給肥料といふのは一戸で差がなく、豫算生活、自給自足といふやうな項目は今後のところでは全く見當りません。新たに今後のところに登場したものは組合によつての三戸、肥料節減、滿收入での各二戸宛、醫藥を用ひぬ、税金、日用品の引下げ、田地を賣る、雜收入、賣り喰ひの各一戸等でありましたが、斯うした方法によつて窮狀を打破せんとしてゐる農家のあることも注目されねばなりません。

さて最後に、物價高に對する希望に就て見ますと、こゝでの回答戸數は六十六戸に減じてゐるのですが、その希望條項の累計は逆に増加してをりまして百四十一件の多數に上り、一戸で平均二件以上の希望を記してゐることになるのでありますから、如何に農家が他に期待するものが大きいかを示してゐると思はれます。希望項目別に農家戸数を見ますと次のやうになつてをります。

希望項目別農家戸數	
小作料引下げ	四二戸
必需品物價の引下げ	二八
減稅	二〇戸
肥料値下げ	一九
地區別調査集計の結果(中國)	一九三

農産物價の引上げ	一〇	電氣料値下げ	一
小作法制定	一〇	勞賃値上げ	一
借金整理	七	經濟更生の實現	一
生活の安定を講じて	二	計(延戸數)	一四一

小作料を引下げて貰ひたいといふのが最も多くて、四十二戸の農家によつて希望されてをります。これに小作法の制定を希望する農家十戸を加へますと、小作關係の希望は五十二件の多きに上る譯であります。物價高切抜けに直接の關聯を持たないやうな小作料の引下げ、小作關係の調整が斯様に多く要求されてゐることは相當注目さるべきであります。次に、物價を引下げてといふ農家は、必需品物價の引下げを希望する二十八戸、肥料値下げの十九戸及び電氣料値下げの二戸であります。肥料値下げを希望する農家が比較的少ないのは、必需品物價の引下げの中に肥料の引下げも含まれた爲であらうかと思はれます。價格を引上げてといふ希望の農家は、農産物價格の引上げを希望する十戸及び勞賃引上げを希望する農家一戸だけでありまして意外に少ないのですが、この邊から推測される農民の心理は、賣るものはさう値上げして貰はなくともよいが、何とか買ふものを値下げして欲しいといふのでありまして、小農の氣持がよく現はれてゐると思はれます。減税を希望する農家は二十戸を數へて多いのでありますが、これはこの地の調査農家に自小作農が多く、その耕作面積も割合に廣かつたことに基因するのではないかと思ひます。尙、借金整理を希望する農家は七戸で、生活の安定を講じて欲しいといふのと經濟更生の實現を希望するといふのは漠然として意味が明かでありませんが、要するに、前述の小作關係の調整と農家必需品の價格値下げとが大多數の農家の一般的希望のやうであります。

工場その他への出稼 こゝで回答のあつた農家は僅か十七戸でありまして、その出稼の員數は十八人で、これを男女別に分けると男十五人、女三人となつてをります。男十五人のうち五人は經營主であります。女の三人は母一人、妻一人、娘一人となつてをります。そして、出稼の時期を見ますと次のやうになつてゐるのです。

月別出稼人員數					
一	月	七人	四	月	二人
二	月	一	五	月	一
三	月	二	八	月	三
計		九	月	一八	

右によると、一月に出るものが最も多くて七人、それに次いで八月の三人、以下表の通りであります。出稼先に就て見ますと、工場へ行くものが六人、工場以外のところへ行くものが十二人となつてをります。工場以外のところといふのは林道工事、工事場、農事會社、果樹園、購買組合、隣接村、他府縣、農家へなどあります。次に、出稼者の所屬農家を自、小作別に見ますと、小作が流石に多くて九戸、自小作が七戸、其他農家が一戸となつてをります。尙、出稼農家十七戸のうち七戸(人員は八人)は岡山縣赤磐郡某村の農家でありまして、この村の耕作面積は非常に狭いのであります。

銃後の御奉公 銃後の御奉公は誠に心強く回答農家が六十九戸、御奉公の項目累計が百六十二項に上つてゐまして、一戸當り平均二件以上の御奉公を記してゐる勘定になります。項目別に農家戸數を示しますと次のやうであります。

御奉公の種類別戸數

祈願	四五戸	國防獻金	一〇戸
慰問金品	一六	乾草獻納	九
慰問	一六	寄附金	七
歡送	一四	千人針	七
餞別	一二	計(延戸數)	一六二

斯うして見ましたゞけでも、銃後の御奉公は凡ゆる部面に互つて廣汎に行はれてをりまして、その熱誠の程が偲ばれるのであります。

九四 國

四國區に於ける調査農家戸數は總計七四戸であります。縣別に申しますと、徳島縣では那賀郡某町の八戸、愛媛縣では北宇和郡某村の七戸、同じく温泉郡A村の十戸、B村の十一戸、香川縣では香川郡某村の十一戸、綾歌郡の數ヶ町村に互つて二十戸、木田郡某町の七戸と云ふ内譯になつて居りまして、たゞ高知縣がないだけです。尙、この調査は農民組合關係の農家の調べであります、香川縣下では、殊に綾歌郡では、農民組合と云ふよりも寧ろ社會大衆黨關係の農家を對照に採つてありますので、その點豫め一言注意して置きます。

自、小作別農家の戸數 先づ農家の地位を見る爲め、自、小作別の分類を見ますと、左表の如く、小作農が最も多くて總數の六割餘を占め、次いで自小作農、其他の農家、自作農の順序になつて居ります。これを縣別に見ましても大體同じやうな傾向にあると見られませうが、徳島縣では自小作の方が多くなつて居りますし、其他の農家が香川縣に多く見られるのであります。今、参考の爲め縣別にした自、小作別農家を示しますなら次の通りであります。

	自、小作別農家戸數			
香川縣	自作 一戸	自小作 一三戸	小作 二一戸	其他 三戸
愛媛縣	一	五	二一	一
徳島縣	二	五	三	四
計	二	二三	四五	四
				計 三八戸
				二八
				八
				七四

耕作面積並に小作地面積 これ等農家の經濟的基礎を見る爲め如何程の耕作面積を持つて居るかを見ますに、總耕作面積は六十三町三反九畝でありまして、これを一戸當り平均に致しますと八反五畝となります。普通に謂はれる四國區の一戸當り平均面積は七反六畝でありますから、それに比べると調査農家は寧ろ上位の農家とも見られますが、全體平均一戸當りの九反五畝(北海道を除く)に比較しますと矢張り狭く、流石に四國らしい特色を示して居ると思ひます。そして、縣別にその事情を窺ひますと、平均面積の最も廣いのは徳島縣、最も狭いのは香川縣であります。

次に、右の總耕作面積中に占めて居る小作地面積を見ますと四十九町一反一畝でありまして、總耕作面積の八

そして、前に分類した農業収入と、比較して見ますと左の如く、減少したのは米麥で、反對に増加したのは農産加工、それから米麥以外と其他は増減なしと云ふ事になつて居ります。

農産加工	米	麥	其他のもの	計
収入	一三六	一二五	一二	一八四
販賣	一二五	一一	一二	一八三
増減	(一)	(一)	(一)	(一)

更に、これ等の販賣物に就て、金額的に見て何が重要かの順位別に見ますなら、次の表にも見られる如く何と言つても米が最も重要な販賣物であることが解ります。即ち、販賣戸數の上からは麥が第一であります。金額上第一位のものは米が四十四戸で最も多く、これに對して麥は二十二戸に過ぎません。野菜や叭等は戸數の上からは藪よりも多いのでありますが、金額上からは第三位が多く、藪は戸數は少ないが第一位にあるものが多いのであります。

主要販賣物の順位別	第一			第二			第三			計		
	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位
米	四四	一五	二	六	二	一	二	一	五	九	六	九
麥	二二	四〇	二	六	二	一	二	一	五	九	六	九
野菜	一	三	八	一	二	一	二	一	三	四	六	三
叭	一	三	八	一	二	一	二	一	三	四	六	三
藪	一	三	八	一	二	一	二	一	三	四	六	三
計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

主要販賣物の順位別	第一			第二			第三			計		
	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位
煙草	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
果樹	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鶏	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
竹	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
藪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	七三	六八	四二	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三

續いて縣別に見ますと、愛媛縣では米、藪及び菜種が擧げられて居りますが、米は温泉郡で絶對的に多いのに對し、宇和郡では、藪、菜種が主要な販賣物とされて居ります。徳島縣では米が多く、香川縣では木田郡、綾歌郡等で販賣物第一位に麥が多く擧げられて居ります。又、自小作別に見ますなら、香川縣では小作農に於て叭、筍等が多く擧げられ、愛媛縣では自小作農に於て藪が多く擧げられて居ります。尙、これ等の販賣方法を見ますと、徳島縣では直接商人へ賣つて居るものが多く、香川縣では餘り統一がなく、綾歌郡で米麥は産業組合へ、叭は商人へと云つた程度で、愛媛縣では特に温泉郡では米麥は商人へ、野菜は大體出荷組合へ、藪は特約組合、煙草は専賣局へといふ状態で、兎も角、全體を通じて見れば農産物販賣の統制は餘りとれて居ないと言つてよいかと思ひます。

米の販購買狀況 農家の經濟にとつて重要な米の販購買狀況を見ますと、米を賣つて居る農家は調査農家の約九割を占める六十戸を數へ、反對に米を買つて居るのは四割三分に當る三十二戸を數へるのであります。縣別に見ますと、次の如く、販賣に於ては愛媛縣が最も高い率を示し、次いで徳島、香川、の順となつて居り、購入に於ては愛媛縣が最も高い率を示し、次いで香川、徳島の順となつて居りまして、愛媛縣が販賣にも購入にも高い率

を示して居るのは注目されます。

香川縣	調査農家	販賣農家	購入農家
愛媛縣	三八	二八	二八
徳島縣	二八	二六	一九
	八	六	一

米の販購買の時期を見ますと、販賣に於ては十二月が最も多く、次いで一月、十月、二月の順となつて居り、購入では八月が最も多く、次いで七月、六月、四月の順となつて居ります。農家が一般に米を安い時期に賣り、高い時期に買入ると云ふ事はこれによつても明かでありませう。

米の販購買の時期

一月	販賣	購入	販賣	購入	販賣	購入
二月	五戸	一戸	五月	一戸	九月	一戸
三月	三	一	六月	一	十月	三
四月	一	三	七月	一	十一月	二
			八月	一	十二月	四
						三
						一

そして、自小作別の事情を見ますと、大體、小作農の販購買が割合多く、自小作、自作農では比較的少ないやうに見られますが、時期から見ますと、小作農に於て特に早く賣買して居るやうであります。

農家の主要購入品

(イ) 農業用購入品 先づ主要農業用品に就いて集計した結果は(括弧内は戸數)次の通りであります。

肥料(七三) 農具(六五)、飼料(一九)、種(一一)、種子(六)、農用車(三)、農業藥品(四)、牛(三)、計一八三
右の如く、最も多いのは肥料で、次いで農具、飼料等の順序になつて居ります。肥料が農家にとつて如何に大きな支出かは、これでも容易に解ると思ひますが、更に金額の順位別に見ます一層それがはつきりして來るのであります。即ち、肥料の回答七十二戸の中七十一戸までが第一位に記されて居りますと同時に、第一位の回答七十四戸の中七十一戸までが肥料であるのであります。農具は肥料に次いで多いのであります。金額上からは肥料程に重要でなく、主として第二位に記されて居りますし、飼料その他に就ては、次に掲げる農業用品の金額順位別によつて見られたいと思ひます。

農業用購入品の順位別

肥料	第一位	七十二戸	第二位	一戸	第三位	一戸	計	七十二戸
農具	第一位	五三	第二位	一一	第三位	一	計	六五
飼料	第一位	九	第二位	一〇	第三位	一	計	一九
種子	第一位	二	第二位	四	第三位	六	計	一二
								七四
								六九
								四〇
								一八四
								三
								三
								四戸
								四戸

縣別に見ますと各縣とも餘り差が無いやうであります。香川縣では農具を擧げて居るものが割合多く、愛媛縣では種が多いのです。尚、これ等農業用品の購入方法に就て見ますと、直接商人から購入して居るのが大部分

でありまして、肥料、農具、飼料等を組合を通じて購入して居るのは一部分に過ぎません。従つて、殆んど統制が採られて居らないと云ふ状態であります。

(口) 家事用購入品 次に、家事用品に就て金額的に見て大きなもの二、三を挙げて貰ひ、それを集計した結果を示しますと次の如くであります。

衣類(四三)、調味料(三八)、副食物(一九)、日用品雜貨(二五)、光熱費(二四)、醫藥費(一七)、酒(一二)、家具什器(一六)、米(三)、煙草(二)、計一九九

右の中最も多いのは衣類で、それに次いでは調味料であります。調味料の中では醤油が多く、次いで砂糖、鹽等が挙げられて居ります。副食物ではニボシ、干物等が多く挙げられ、特にニボシは愛媛縣温泉郡のB村に多いのです。光熱費は主として薪炭であり、醫藥の中では賣藥が大部分を占めて居ります。酒も亦割合に多く挙げられて居ります。

これ等を金額の順位別に見ますと、次の表に示す如くで、衣類は戸數の上では多いのですが、金額的には寧ろ調味料、副食物、日用品雜貨等が第一位を占めて居るものが多いのであります。農家の家事用品では衣食住三者の中、大體食に關するものが最も多いやうであります。酒や米が第一位に記されて居るのも注目すべき事と思ひます。

家事用購入品の順位別

	第一位	第二位	第三位	計		第一位	第二位	第三位	計
衣類	一一戸	二八戸	四戸	四三戸	酒	八戸	一戸	三戸	一二戸
調味料	一九	一三	六	三八	家具什器	—	二	四	六
副食物	一五	四	一〇	二九	米	三	—	—	三
日用品雜貨	一五	八	二	二五	煙草	—	—	二	二
光熱費	二	一四	八	二四	計	七四	七二	五三	一九九
醫藥費	一	二	一四	一七					

縣別に見ますと大差はありませんが、愛媛縣では醤油、薪炭等が多く挙げられ、香川縣では副食物、衣類、醫藥等が多く挙げられて居ります。尚、購入方法を見ますと、殆んど全部直接商人から購入して居るのであります。たゞ香川縣綾歌郡下で日用品を消費組合からと明記して居るのが見られると云つた程度に過ぎないやうであります。

物價値上りの經驗 最近に於ける物價の値上りに就て、種々の觀點から調べた結果を順次申し述べます。

(イ) 物價値上りの經驗(購入の際) 先づ何を買つた時に、物價の値上りを感じたかと云ふ質問に對しての回答を、集計した結果は(括弧内は戸數)次の如くであります。

肥料(三二)、日用品雜貨(二四)、醫油(三)、農具(三)、石油(二)、米(一)、糖(一)、酒(一)新聞(一)、計六七

素々からした調査では、特に回答する人々の心構へが大いに關係すると思ひます。調査の時期や指導者の暗示的な言葉が色々と影響を與へる事は申す迄ありませんが、回答するもの自身でも、値上りの幅に重點を置くかそ

うでなく自身の經濟の上から見て支出額の大きなものに重きを置くか等によつて色々と異ると思ひます。が兎も角、集計の結果から見ますと肥料が最も多く、次いで日用品雜貨であります。この中ではマッチ(一五)が多く次いで日用品(二)、金物(二)、トタン(二)、木綿(一)、毛糸(一)等が挙げられ、特にこれ等日用品に就ては婦人の感ぜたいものがあるやうに思はれますし、又、農具が餘り多く挙げられて居らず、石油や、米、さては酒等の挙げられて居るものもそれ〴〵に意味があると思ひます。

次に、右の値上り經驗の時期を見ますと、左の如くで(括弧内は戸數)六月と七月が多く、次いで二月、五月、八月の順序になつて居ります。そして六、七月に多いのは調査の時期に多大の關係があると考へられます。

一月(三)、二月(八)、三月(四)、四月(五)、五月(七)、六月(一五)、七月(一四)、八月(六)、九月(二)、十月(一)、十一月(一)、十二月(二)、計六七

それから、縣別の經驗では、愛媛縣で肥料が多く、徳島縣で肥料と日用品、香川縣で日用品雜貨特にマッチが多く挙げられて居るのです。

(ロ) 物價値上りの經驗(販賣の際) 次に、何を販賣した際に物價の値上りを感じたかを見ますに、その集計の結果は(括弧内は戸數)次の如くであります。

麥(二五)、蕙(四)、米(三)、筥(三)、吠(三)、牛(二)、麥稈(一)、計五一

この販賣の際の經驗は購入の時に比べて減少して居るのでありますが、これは記入洩れもありませんが、一面には販賣の際にさうした値上りの經驗が事實少なかつたと云ふ風にも解されると思ひます。兎も角、回答された

ものゝみに就て見ますと麥が最も多いのでありまして、又、蕙や吠や筥等も見られるのでありますが、それは農産加工を行つて居る農家が比較的多い結果からと思はれます。

經驗の時期から申しますと、次の如くに七、八月が多く、次いで六月、五月と云ふやうになつて居りますが、これも調査の時期が多分に影響して居ると考へられます。

一	月	戸	六	月	九	月	十一月	戸
二	月	一	七	月	一八	月	十二月	一
三	月	一	八	月	一二	月	不明	二
四	月	一	九	月	三	月	計	五一
五	月	四	十	月	一	月		

それから、縣別に致しますと餘り差は見られないのでありますが、徳島縣に於ける蕙、愛媛縣特に宇和郡に於ける牛の記入は注目すべき事かと思ひます。

物價値上りの苦痛 こゝでは、何の値上りを最も苦痛とするかと云ふ質問ですが、現在と今後の兩方面から觀察することに致します。

(イ) 現在最も苦痛とするもの 物價の値上りで、現在最も困るものゝ回答の結果は(括弧内は戸數)次の通りであります。

肥料(五二)、日用品雜貨(八)、米(二)、醤油(一)、木材(一)、石油(一)

右によりますと、最も多いのは何と言つても肥料で回答總數の八割を占めて居りますが、この外に日用品雜貨

の値上りで困ると云ふもの、さては米、醤油、木材、石油等の値上りで困ると云ふ數戸も、それが一番困るのだと云ふ意味合ひに於て留意さる可き事と思ひます。

(口) 今後最も苦痛とするもの 今後の苦痛では、現在困つて居ることが即ち今後も困るのだと云ふ意味で、大體現在の回答と大差はありませんが、それでも多少内容的に變化を見せて居る事は注目すべきでせう。今、参考の爲め現在と今後の比較表を示しますと次の如くであります。

	現在		今後	
	戸	数	戸	数
肥料	五	二	五	三
日用品	八	二	一	三
米	二	八	一	三
醬油	一	一	一	一
木材	一	一	一	一
石油	一	一	一	一
薪炭	一	一	一	一
衣類	一	一	一	一
煙草	一	一	一	一
計	六	五	七	一

縣別では殆んど差異が見られませんが、香川県に於きまして日用品雜貨の記入が割合に多く見られます。そして、それ等の記入は小作農や其他農家に特に多いやうに見受けられます。

物價高の切抜け方法 それでは物價高を如何にして切抜けるかと云ふのに、これも現在と今後の兩方面から觀察したのです。

(イ) 現在如何して切抜けるか 現在の切抜け方法の回答の結果を見ますと(括弧内は戸數) 次の如くであります。

節約(三七)、借金(一八)、勤勞(八)、副業(五)、農業經營改善(四)、農業外收入(三)、米麥の値上り(一)、不明(二)、計七八

切抜けの方法は大體に於て積極的なものと消極的なものとに分けられると思ひますが、右によりますと消極的な方法が多數を占めて居る事が解りませう。そして、節約が最も多いのですが、この中には生活費の切下げや粗食等が盛られて居ります。借金も相當の數に上つて居ります。それから、稍々積極的なものとしては勤勞、副業、農業經營の改善等が擧げられませう。尙、米麥の値上りを待つと云ふのが一戸あり、打開策のない不明が二戸あります。

(ロ) 今後如何して切抜けるか 今後の切抜け方法も現在と大差ありませんが、たゞ貧農本位の農業政策とか、國家的精神とか云ふ回答が擧げられて居るのは一寸注目させられます。然し、これ等は自身の切抜け方法と云ふより寧ろ希望であります。今、参考の爲め現在と今後の切抜け方法の比較を致しますと次の如くであります。

	現在		將來	
	戸	数	戸	数
節約	三	七	二	六
借金	一	八	一	三
勤勞	八	二	一	二
副業	三	八	三	三
農業外收入	三	五	三	三
計	一	一	一	一

	現在		將來	
	戸	数	戸	数
農業經營改善	一	四	一	一
貧農本位の農業政策	一	一	一	一
物價引下げ	一	一	一	一
米麥の値上り	一	一	一	一
國家的精神	一	一	一	一
計	二	一	二	一

地區別調査集計の結果(四國)

縣別に見ますと、愛媛縣では借金の記入が多く、香川縣では節約、徳島縣では農業經營改善の記入が多いのです。そして、自小作別の差異を見ますと、小作農に於ては節約、出稼、勞賃収入等を擧げて居るものが多く、自小作、自作農に於ては副業、農業經營改善、勤勞等を擧げて居るものが多いやうに見受けられます。尤も、これは經營面積との關係が多分に加味されて居ると思はれまして、例へば小作農に於ても經營面積の大きなものは、自小作、自作農と同じく勤勞、農業經營改善等を擧げて居るものが多いのであります。

(ハ) 物價高切抜けに關する希望 農家が物價高切抜けに關して如何なる希望を持つて居るかを調べてみますと、回答戸數は七十一戸、回答事項數は百九件でありまして、その回答を集計して見ますと(括弧内は事項數)次の如くであります。

肥料の値下げ(二八)、必需品の値下げ並に農産物價格の引上げ(二〇)、小作料減免(一八)、借金整理及び支拂猶豫(八)、農具の値下げ(六)、勞賃引上げ(三)、低利資金融通(三)、共同組合利用(二)、副業(二)、醫療費の低下(二)、其他(一八)、計一〇九

右によりますと、農用品の値下げに關する希望が多く、特に肥料は回答事項總數の二割五分を占めて居ります。次いで多いのは物價調整に關する希望でありまして、この中には必需品の値下げ(八)、農産物と工産物との價格を平衡せよ(八)、と云ふもの、米價の引上げ(二)、農産物價格の引上げ(一)、物價値下げ(一)、等が含まれて居ります。小作料減免の希望も相當あります。又、負債整理の希望や勞賃の引上げ或は副業等の希望もあり、

其他の中には生活安定(一一)、貧農救済(二)、仕事を與へて欲しい(二)、國家的精神(一)及び宜敷く願ひます(一)と云ふのが含まれて居ます。兎も角、希望事項としては種々雑多なものが擧げられますが、この雑多なところに亦意味があると思はれるのであります。

そして縣別に見ますと、愛媛縣では小作料減免、肥料値下げ、農具の値下げ等が多く、香川縣では物價調節、生活安定、勞賃引上げ等で、徳島縣では農産物價格の引上げが多く、それ〴〵その希望意見も多少趣を異にして居るやうです。又、自小作別に見ますと、これは寧ろ經營面積の大小によつて見た方が、より、はつきりするやうでありまして、經營面積の廣い農家では肥料や農具の値下げを擧げて居るものが多く、經營面積の狭い農家では勞賃引上げや副業等が多く見られるのであります。

工場その他への出稼狀況 農村から工場その他への出稼を調べますと、その結果は次の如くであります。

(イ) 性別に見た出稼狀況 調査農家七十四戸中、出稼者のある農家は十六戸で總戸數の二割一分に當ります。そして出稼の員數は十七名でありまして、性別に見ますと男十四名、女三名で男の方が絶對的に多い事が解ります。縣別に見ますと愛媛縣では五名で全部が男、香川縣では男七名、女三名の計十〇名で矢張り男が多く、徳島縣では男二名であります。

(ロ) 出稼先その他から見た出稼狀況 出稼先に就て見ますと、工場方面へ五名、其他へ十二名ありまして、この其他への出稼の内譯を見ますと自動車關係二名、滿洲移民一名、鹽田勞働一名と他は出稼先不明であります。そして縣別に見ますと、愛媛縣では工場へ二名、其他へ三名、香川縣では工場へ二名、其他へ八名、徳島縣では

工場へ一名、其他へ一名となつて居ります。

出稼者所屬農家の自小作別を見ますと小作農八戸、自小作農六戸、其他農家二戸で、小作農が最も多くなつて居り、これを縣別に見ますと、愛媛縣では小作農三戸、自小作農、其他各一戸、香川縣では小作農五戸、自小作農三戸、其他一戸、徳島縣では自小作農二戸となつて居ります。

銃後の御奉公 最後に銃後の御奉公として、どんな事をして居るかを見ますに、これに關する回答戸数は七十戸で回答事項数は百四十九件であります。今これを集計して見ますと（括弧内は事項數）次の如くなるのであります。

乾草獻納(三七)、國防獻金(三五)、勞働奉仕(二二)、祈願(二三)、慰問金品(一一)、歡送(一一)、家族慰問(九)、餞別(六)、銃後々援會加入(三)、計一四九

これによると祈願、歡送、家族慰問等の精神的方面が挙げられますと共に、國防獻金、乾草獻納、勞働奉仕、慰問金品、餞別、銃後々援會加入等の謂はゞ物質的な方面も挙げられて心強い限りです。尙、縣別に見ますと、愛媛縣では乾草獻納、勞働奉仕、國防獻金等が多く挙げられて居り、香川縣では國防獻金、乾草獻納、祈願等が、徳島縣では家族慰問、勞働奉仕等が多く挙げられて居るのであります。

一〇九 州

調査農家 九州區で調査したのは福岡縣、鹿兒島縣、佐賀縣の三縣で、調査農家の總戸數は四十八戸であります。

各縣別に見ますと、福岡縣が筑紫郡某町の三戸、同じく筑紫郡某町の九戸、朝倉郡某村の九戸、福岡市某町の九戸で計三十戸、鹿兒島縣が始良郡の二ヶ村で九戸、佐賀縣が三養基郡の某村だけで九戸といふことになつてをります。この調査農家四十八戸を自、小作別に致しますと、自小作農九戸、小作農三十六戸、其他農家三戸となつてをりまして小作農が壓倒的に多く、自作農は全くありません。各縣別に自、小作別農家戸數を見ますと次の通りであります。

縣	自、小作別農家戸數			計
	自	小作	其他	
福岡縣	1	3	3	7
鹿兒島縣	1	4	1	6
佐賀縣	1	2	1	4
計	3	9	3	15

尙、福岡市某町の調査農家は全部小作農でありますし、鹿兒島縣始良郡某村の調査農家は全部自小作農であります。それから福岡縣の調査農家は、福岡市某町の調査農家にしても亦筑紫郡の二つの町の調査農家にしても、何れも純農村の農家ではなくして寧ろ町に近い近郊農家であります。こゝにいふ近郊農家の持つてゐる特殊な事情が後述の調査事項に於て隨所に見られるのであります。

耕作面積及び小作地面積 全調査農家の四十八戸で耕作してゐる總耕作面積は三九七・七反歩でありまして、農家一戸當り平均耕作面積は八・三反歩であります。この一戸當り耕作面積が如何に狭小であるかはこの數字から

でも判るのでありますが、これを一般に謂はれる九州區の一戸當り平均一〇・二反歩並びに全國平均一戸當り(除北海道)九・五反歩と比較してみますと、その狭小さはつきり判るのであります。本調査の農家は九州に於ても亦全國的平均より見ても遙かに平均以下の水準にある小農であります。縣別にしますと、福岡縣の八・〇反歩が最も小さく、鹿兒島縣の九・一反歩が最も大きいのであります。最大の鹿兒島縣でさへ僅かに九・一反歩に過ぎないのであります。福岡縣の一戸當り面積が特に狭小なのは、この縣の調査農家が主として近郊農村の農家であること、深い關聯があるのでありませう。自、小作別の一戸當り耕作面積を見ますと、自小作農の耕作面積はさすがに幾分大きくて一〇・九反歩となつてをりますが、小作農では僅かに八・一反歩に過ぎず、其他農家の一戸當り面積は二・八反歩であります。詳細は次表の通りであります。

次に小作地面積に就て見ますと、耕作面積八・三反歩のうち七・三反歩が小作地でありまして、自作地は僅かに一・〇反歩に過ぎないのでありますが、これを割合で示しますと自作地一割二分、小作地八割八分といふことになります。調査農家の大半が小作農でありますからこの割合は當然のことでありませうが、それにしても、この調査に於ける農家が如何なる經濟的基礎の上に置かれてゐるかよく判ると思ひます。各縣別並に自、小作別に耕作面積及び小作地面積を示しますと次のやうになつてをります。

耕作面積並に小作地面積(一戸當り平均)

福岡縣	耕作面積		其他	平均
	自小作	小作		
耕作面積	一〇・七	八・四	二・八	八・〇
内、小作地	六・九	七・七	二・八	七・三

鹿兒島縣	耕作面積		其他	平均
	自小作	小作		
耕作面積	八・八	九・五	一・一	九・一
内、小作地	二・六	八・九	一・一	五・七
耕作面積	一五・三	六・四	一・一	八・六
内、小作地	一一・三	六・二	一・一	七・三
耕作面積	一〇・九	八・一	二・八	八・三
内、小作地	七・三	七・六	二・八	七・三

尙、貸地の記入あるのは鹿兒島縣某村の自小作農一戸だけで八畝とあります。

農家の主要収入 此、では調査農家四十八戸が全部回答して來てをりまして、その記入成績は非常に良好であります。主要収入の品目別に農家戸數を示しますと次の通りになつてをります。

主要収入品々目別戸數

米	福岡		計	鹿兒島	佐賀	計
	戸數	計				
米	二七	五	四一	二	一	二
麥	二一	九	三八	二	一	二
菜種	二〇	一	二一	一	一	二
野菜	八	一	九	一	一	二
煙草	一	六	七	一	一	二
繭	一	一	二	一	一	二

大豆	福岡		計	鹿兒島	佐賀	計
	戸數	計				
大豆	一	一	二	一	一	二
甘藷	一	一	二	一	一	二
栗	一	一	二	一	一	二
青果	一	一	二	一	一	二
計(延戸數)	七	七	一四	一	一	二
(調査農家)	(三〇)	(九)	(三九)	(九)	(四八)	(八七)

米を主要収入としてゐる農家は全部で四十一戸ありまして、大部分の農家が米を主要な収入としてゐることが

判るのでありますが、これを縣別にしますと、佐賀縣の農家は全部が米を主要収入とし、福岡縣も大部分の農家が米を主要収入としてゐるのでありますが、鹿兒島縣の農家は約半數の農家が米を主要収入と記してゐるに過ぎません。麥に就て見ますと、麥を主要収入としてゐる農家は全部で三十八戸ありますが、米とは反對に鹿兒島縣の農家では全部が麥を主要収入としてをります。佐賀縣では一戸が麥を主要収入としてゐないだけであります。福岡縣では約七割の農家が主要収入としてゐるに過ぎません。茶種を主要収入としてゐる二十一戸のうち二十戸は福岡縣の農家でありまして、福岡縣が茶種の生産地であることがこの調査にも現はれてゐる譯であります。野菜を主要収入としてゐる農家十一戸のうち八戸は福岡縣の農家でありまして、福岡縣の調査農家が都會地に近い近郊農家であること的一端がこゝにも現はれてをります。煙草を主要収入としてゐる農家は全部鹿兒島縣の農家でありまして、鹿兒島縣の調査農家九戸のうち六戸が煙草を主要収入としてゐるのであります。大豆、甘藷、粟は何れも鹿兒島縣の農家の主要収入でありますし、青果は佐賀縣、繭は福岡縣と佐賀縣の主要収入であります。

次に、各主要収入品目に就て金額の大きなものゝ順位別戸數を見ますと左の如くになつてをりまして、各品目の農家にとつての重要さの程度が判るのであります。

主要収入品目並に別順位別戸數

品目	第一位	第二位	第三位	計
米	三十七戸	三戸	一戸	四一戸
大豆	一戸	一戸	二戸	四戸
甘藷	一戸	一戸	一戸	三戸
粟	一戸	一戸	一戸	三戸
青果	一戸	一戸	一戸	三戸
煙草	三戸	三戸	一戸	七戸
野菜	四戸	一戸	六戸	一一戸
茶種	一戸	一戸	一戸	三戸
麥	三戸	二七戸	八戸	三八戸
繭	一戸	一戸	二戸	四戸
計	三十七戸	三戸	一戸	四一戸

(延戸數)

即ち、米に就て見ますと、これを主要収入として記した農家四十一戸のうち三十七戸迄が米を最も重要な第一位の収入と記してゐるのであります。この地方の農家にとつて米が如何に重要な収入であるか、これを以つてしても容易に知られるのであります。それが麥になりますと、麥を主要収入としてゐる農家は三十八戸あるのであります。そのうち僅か三戸だけが麥を最も重要な第一位の収入としてゐるだけであります。大多數の農家は麥を第二位乃至第三位の収入と記してゐるのであります。それから野菜になりますと、野菜を主要収入としてゐる農家十一戸のうち四戸が之を最も重要な収入と記してゐるのであります。第一位の収入のところでは麥よりも一戸多いことになつてをります。この野菜を第一位の収入と記してゐる四戸は全部福岡市の農家でありまして、この邊にも近郊農村の農家たる面目が躍如としてをります。煙草を第一位の収入としてゐる農家も三戸あります。煙草を主な収入と記してゐる農家の半數を占めてをります。その他の品目の夫々の重要さに就ては右の表示から推察されたいと思ひます。

主要販賣物及び販賣方法

こゝでの回答農家は四十二戸でありまして、残り六戸の農家は回答を寄せてをりません。この回答の無かつた六戸は、福岡縣筑紫郡某町の小作農二戸と其他農家二戸及び佐賀縣某村の小作農二戸

であります。このうち福岡縣の其他農家二戸と佐賀縣の小作農二戸は、その耕作面積が非常に狭小でありますから、その生産物の全部を自家用となす爲に販賣物が全く無いのかも知れませんが、福岡縣の小作農二戸は耕作面積も九・〇反歩前後の農家でありまして少し位の販賣物は當然あること、思はれますので、これは全く不注意の爲の記入洩れであらうと想像されます。回答のあつた農家四十二戸に就て、その主要な販賣物の品目別戸數を縣別に示しますと次のやうになります。

主要販賣物の品目別戸數

品目	福岡縣			佐賀縣			計		
	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計	
米	一三	五	六	二四	一	二	一	二	
麥	九	九	六	二四	—	—	—	—	
菜種	二〇	—	—	二一	—	—	—	—	
野菜	七	—	—	八	—	—	—	—	
煙草	—	六	—	六	—	—	—	—	
繭	三	—	—	四	—	—	—	—	
計(延戸數)	—	—	—	—	—	—	—	—	
(回答農家)	(二二)	(九)	(七)	(四二)	—	—	—	—	

つまり、回答農家四十二戸のうち米、麥を主要な販賣物としてゐる農家は各々二十四戸宛で最も多く、その次は菜種を主要なものとしてゐる農家二十一戸となつてゐるのでありますが、野菜になりますと戸數がぐつと減少しまして八戸、煙草は六戸、繭は四戸といふやうになつて來ます。これを縣別にしますと、福岡縣では菜種を主要販賣物と記してゐる農家が最も多く、それに次いで米となり、鹿兒島縣では回答農家全部が麥を主要販賣物と

記してをりまして、續いて煙草の六戸となつて居り、佐賀縣では米、麥を主要販賣物と記してゐる農家が各々六戸宛で最も多くなつてをります。

次に、これ等の主要販賣物の品目別戸數を前に掲げた主要収入の品目別戸數と突き合せてみますと、その間か
 なるの増減が見られるのでありまして、この増減によつて農産物商品化の一斷面が窺はれるやうに思はれます。
 即ち、主要販賣物のところで戸數の減少を示してをりますのは、米、麥、野菜、甘藷、粟であります。これ等の品目に於ける農家戸數の減少は、とりも直さず、それを生産してゐる農家の或るものがそれ等を全く販賣してゐないことを現はしてゐるのでありまして、多かれ少かれ自家用として消費される自給的性質を持つてゐるものであることが判るのであります。例へば、米を主要収入とするものは四十一戸あつたに拘らず、米を主要販賣物と記してゐるものは僅かに二十四戸に過ぎないのでありまして、十七戸の農家では米が主として自家用に充てられてゐることが一應判るのであります。麥では十四戸が、野菜では三戸が、甘藷、粟では各々一戸宛が、夫々の品目を主として自家消費に充てゝゐることが判ります。そして、主要収入と主要販賣物とで全く戸數に増減を見ないのは菜種、煙草、大豆、青果であります。同じ見方からして、これ等の品が全く販賣を目的として作られてゐることが一應判るのであります。尙、主要販賣物の方で戸數が増加してをりますのは繭だけですが、この増加分の二戸は全部福岡縣朝倉郡某村の農家でありまして、繭は主要収入に於ける米及び麥と入れ替つてゐるのであります。このことは米や麥が主として自家消費に充てられた爲に、生産物では餘り重要でもなかつた繭が、販賣物では主要なものとして浮び上つて來たことを示してゐるに外ならないのでありまして、この繭が何れ

も販賣物の第三位に記されてゐることがよく物語つてをります。

更に、各販賣物の品目に就て、金額の大きなものゝ順位別戸數を見ますと次のやうになつてをります。

主要販賣物の順位別戸數

品目	順位別戸數			計	順位別戸數			計
	第一位	第二位	第三位		第一位	第二位	第三位	
米	一八戸	四戸	二戸	二四戸				
麥	五戸	一七戸	二戸	二四戸				
茶種	九戸	九戸	三戸	二一戸				
野菜	五戸	一戸	二戸	八戸				
煙草	三戸	三戸	一戸	七戸				
蘭	一戸	一戸	四戸	六戸				
計					四二戸	三四戸	一六戸	九二戸

(延戸數)

右によれば、流石に米を最も重要な第一位の販賣物としてゐる農家が最も多くて十八戸を數へてをりますが、茶種を最も重要な販賣物としてゐる農家も九戸を數へて米に次ぐのであります。麥を最も重要な販賣物としてゐる農家は五戸だけで、總戸數では米と同じく茶種よりも多に拘らず第一位の戸數では茶種の次になつてゐます。これは麥よりも茶種の方が、金額上の収入としてはより重要であることを示してゐるものでありませうが、主要収入のところでは茶種を第一位の収入としてゐる農家が一戸も無かつたことゝ比べますと、現金的収入源としての茶種の重要性が一層はつきり致します。野菜を最も重要な販賣物としてゐる農家も五戸ありまして、野菜を主要販賣物と記してゐる大部分の農家が野菜を金額上重要収入としてゐることが判るのであります。その他の品

目に就ては前掲表示の通りであります。その重要性の程度に就ても表によつて推察されたいと思ひます。尙、各縣の最も重要な販賣物が何であるかを見る爲に、第一位の品目別戸數を縣別に示しますと次のやうであります。

重要販賣物(第一位)の品目別並に縣別戸數

品目	縣別戸數				計	縣別戸數				計
	福岡	鹿児島	佐賀	計		福岡	鹿児島	佐賀	計	
米	九戸	三戸	六戸	一八戸						
茶種	九戸	一戸	一戸	九戸						
麥	三戸	二戸	一戸	五戸						
野菜	五戸	一戸	一戸	五戸						
計					二六戸	九戸	七戸	四二戸		

斯うして見ますと、各縣夫々の生産物並にその農家戸數が判るのであります。たゞ福岡縣の野菜の五戸は全部福岡市某町の農家でありまして、近郊農家の特徴がこゝにもよく現れてゐるのであります。

そこで、販賣方法に就て見ますと、販賣の統制の最もよく行届いてゐるのは福岡縣でありまして、福岡縣では福岡市の農家を除いた他の三ヶ町村の農家は、その販賣物を大體産業組合の手を通じて賣つてをります。福岡市の農家が産業組合を利用することの少いのは、都會地に於ける産業組合の普及状態の一斑を示すものとして興味があります。鹿児島縣では米と麥の一部分が産業組合及び農會を通じて販賣され、煙草が専賣局によつて統一されてゐる外は、販賣は殆んで商人の手に委ねられてをる有様で、販賣の統制も未だ漸くその緒についたばかりの感が多いのであります。この點佐賀縣の農家も同様であつて、茶種の全部と麥の一部分が産業組合で統制されて

ゐるだけでありまして、他の販賣物は殆んど全く商人の手を通じてをります。尙、特殊なものとしては、繭は片倉製絲等との特約取引でありますし、野菜は全部市場へ賣ると記されてゐるのであります。野菜を市場へと云ふのは農家が毎朝市場へ擔ぎ出してゐるものであらうと思はれます。

米の販賣及び購入 先づ販賣の方から見て行きますと、こゝで回答のあつたのは二十三戸でありまして、前の主要販賣物のところで米を主要販賣物としてゐる農家が二十四戸あつたのと比べますと一戸減少してゐるのであります。これは福岡縣朝倉郡某村の農家で、主要販賣物のところで米と記入した小作農の二戸が本項では全く記入しなかつたこと、鹿兒島縣某村の自作農一戸が主要販賣物のところでは米を記入せずして本項で記入してゐるため、福岡縣の農家が本項で記入しなかつたのは全く不注意からであります。鹿兒島縣の農家一戸は米は主要な販賣物ではないが兎に角幾らか(三俵と記入してゐます)は賣るといふ意味のものであります。この回答農家二十三戸に就て、販賣月別の農家戸數を見ますと次のやうになつてゐるのであります。各縣の回答戸數を明らかにする爲に縣別に表示致します。

米販賣農家の月別戸數

十一月	福岡 1戸	鹿兒島 3戸	佐賀 1戸	計 3戸	四月	福岡 1戸	鹿兒島 1戸	佐賀 1戸	計 1戸
十二月	4	1	3	7	五月	1	1	1	2
一月	1	2	3	5	六月	1	1	1	2
二月	1	1	1	3	計	9	8	5	22
計	11	6	6	23	福岡	1	1	1	3
不明	2	1	1	2	鹿兒島	1	1	1	3
計	11	6	6	23	佐賀	1	1	1	3
					計	1	1	1	3

(調査農家)

(三〇)

(九)

(九)

(四八)

即ち、米を賣る農家二十三戸のうち十五戸迄が十一月から一月迄の間に販賣してゐるのであります。この地方の大部分の農家が米價の最も安い時期にその生産米を手離してゐるのが判るのであります。特に、佐賀縣の農家は全農家が十二月と一月に手離してゐるのであります。

次いで米の購入に就て見ますと、米を買つてゐると記入してゐる農家は二十八戸ありまして、米を販賣するといふ農家よりも三戸多くなつてゐるのであります。つまり、全調査農家の約六割が米を購入してゐることになつてをります。この二十八戸に就て購入月別の戸數を見ますと左の通りになります。

米購入農家の月別戸數

一月	福岡 1戸	鹿兒島 1戸	佐賀 1戸	計 1戸	七月	福岡 4戸	鹿兒島 1戸	佐賀 1戸	計 4戸
二月	1	1	1	1	八月	5	1	1	6
三月	1	1	1	2	九月	1	2	1	3
四月	1	1	1	1	不明	2	1	1	3
五月	2	2	1	4	計	18	7	3	28
六月	2	1	1	4	(調査農家)	(三〇)	(九)	(九)	(四八)

これで見ますと、五月頃から米を買ひ始める農家が二十一戸を占めてゐるのであります。この地方の農家が

割合に早く米を手離してゐるに拘らず、少數の農家を除いては大體五月頃迄は自家消費用の米を残してゐることが想像されるのであります。

尙、米を販賣する農家の全く無いのは福岡縣朝倉郡の某村で、米を買ふ農家の全く無いのは福岡縣筑紫郡の某町であります。米を賣る農家より買ふ農家の方が多いのは、福岡市の某町（賣る農家四戸、買ふ農家九戸）、前記朝倉郡の某村（賣る農家無く、買ふ農家六戸）、鹿兒島縣の某村（賣る農家三戸、買ふ農家四戸）の三ヶ町村であります。このうち朝倉郡の某村は前にも述べましたやうに、主要販賣物のところで米を記入しながら本項で記入しなかつた農家が二戸ありまして記入が非常に不正確であります。福岡市と鹿兒島縣の某村で米を買ふ農家が多いのは、前者が近郊農家で野菜を主産物とし、後者が煙草を主産物としてゐる爲ではないかと思はれます。それから、この米の賣買を通して全調査農家四十八戸の經濟内容を見ますと次のやうになつてゐます。即ち、米を販賣して而も全く米を買はないといふ農家が十三戸でありまして、この農家の賣る米は一年間の自家消費費用を差引いた餘剩米であります。次に米は賣らないが買ひもしないといふ農家が七戸ありますが、これは米に關する限り全く自給自足してゐる譯であります。更に米を賣るが他方また米を買ふといふ農家、即ちやりくりによつて切抜けてゐる農家が十戸あります。最後に米を賣らないで却つて買はなくは飯米が無いといふ絶對不足の農家が十八戸ありまして、最も多くの農家がこの状態にあるのであります。

主要購入品及び購入方法 こゝでは農業用品と家事用品とに分けて調べました。先づ農業用品から見て行きますと、回答農家は四十七戸で、回答のなかつた農家が一戸あります。この不回答農家は福岡縣筑紫郡某町の小作

農であります。耕作面積一町餘の農家でありまして購入品の無い筈はありませんから不注意の故の記入洩れと云はねばなりません。回答のあつた四十七戸に就て、その主要購入品目別の農家戸数を縣別に示しますと次のやうであります。

農業用購入品々目別戸數

品目	福岡				鹿兒島				佐賀				計
	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計	
肥料	二八	七	九	四四	一	一	一	一	一	一	一	一	
農具	一八	九	五	三二	一	一	一	一	一	一	一	一	
種子	五	一	一	五	計(延戸數)	五三	一七	一八	八八				
勞力	一	一	三	三	(回答農家)	(二九)	(九)	(九)	(四七)				
馬	一	一	一	二									

右の如く、肥料を主要購入品としてゐる農家が最も多く四十四戸を占めてをりまして、回答農家四十七戸のうちで肥料を主要購入品としてゐないのは三戸だけであります。肥料を主要な購入品と記してゐない農家は、福岡市の小作農一戸と鹿兒島縣某村の小作農一戸及び小作農一戸であります。これは肥料より以上に重要な購入品があつて、その爲に肥料が主要購入品とならなかつたと云ふのではなく、肥料は當然のものであるから格段記入するには及ぶまいといふやうな考へから記入されなかつたものゝやうです。といふのは、本來ならば一戸で三種類の農業用購入品を記入すべきであるところを、この三戸は單に一種類だけしか記入してゐないのであります。このことから上のやうな判断が下されると思ひます。斯うして見ますと、回答農家の全部が肥料を主要購

入品としてゐることになるのでありますが、これは當然のことで、肥料を主要購入品としてゐない方が寧ろ不思議な位なのです。次に、農具を主要購入品としてゐる農家は三十二戸で、肥料よりも遙かに少ないが、農具はそう毎年毎年購入される必要もないものでせうから肯き得ることでありませう。以下はぐつと減つてをりまして、種子が五戸であります。この種子の中には種苗も含まれてをります。そして、この五戸は全部福岡市の農家でありまして、この農家が野菜を主産物としてゐたことゝ符合致します。労力を主要購入品としてゐる三戸は、全く佐賀縣の農家のみであります。これは云ふ迄も無く農繁期に於ける雇傭勞力のことでありませうが、こゝに労力を購入品として取扱ふことの可否に就ては問題があるにしても、勞力が農業經營に必要缺くべからざることには申す迄もないところでありませうから、勞力を主要購入品に採り上げて記入したことは慧眼な農家として誠に至當であると思はれます。續いて馬の二戸、籠の二戸、藥品の二戸となつてをりますが、籠は野菜を入れる籠である旨が附記されてをります。

次に右の農業用主要購入品に就て金額の大きなものゝ順位別農家戸數を見ますと次の通りになつてをりまして、何が最も重要な購入品であるかと判ります。

農業用購入品の順位別戸數

品名	順位別			計
	第一位	第二位	第三位	
肥料	四戸	一戸	一戸	計 六戸
農具	二戸	二戸	一戸	計 五戸
種子	一戸	四戸	一戸	計 六戸
勞力	一戸	一戸	一戸	計 三戸
馬	一戸	一戸	一戸	計 三戸
籠	一戸	一戸	一戸	計 三戸
藥品	一戸	一戸	一戸	計 三戸
計	四七	三二	九	計 八八

（延戸數）

回答農家四十七戸のうち四十三戸迄が肥料を最も重要な第一位の購入品としてゐるのでありまして、肥料の重要性に就ては多言を要しないところであります。そして、右の表に見られる如く、肥料を主要購入品としてゐる農家四十四戸のうち肥料を第一位の購入品としてゐない農家は僅かに一戸だけしか無いのでありまして、このことから肥料の重要性は裏書されてゐる譯であります。それから第一位に記入した農家は農具の二戸、種苗の一戸、籠の一戸となつてゐるのでありますが、農具を第一位に記入してゐる農家二戸及び籠を第一位に記入してゐる農家は、何れも肥料を主要購入品として記入してゐない農家でありまして、この三戸が（前に注意した如く）若し肥料を記入したならばそれが第一位となり、農具、籠は當然第二位とされる性質のものではないかと思はれます。種子（種苗）を第一位の主要購入品としてゐる農家は肥料を第三位の購入品としてゐる農家でありませうが、この農家は収入でも販賣物でも野菜を第一位の重要品としてをりまして、他の産物は殆んど無く純然たる野菜作りの農家でありますので、種苗が自然第一位の重要性を持つやうになつたものと思ひます。金額の大きなものゝ第二位になりますと、回答農家三十二戸のうち二十五戸が農具を記してをりまして、それに續いて種子の四戸となつてをります。第三位でも矢張り農具といふ記入が最も多くて勞力と記入した二戸がこれに續いてをります。詳細は前掲の表示によつて推察されたい。

家事用購入品の方になりますと、こゝでの回答戸數は四十一戸になつてをりまして、農用品の場合よりは六戸を減じ、全調査農家四十八戸のうち七戸が記入なしであります。例によつて購入品の品目別に農家戸數を見ま

すと次のやうになります。

家事用購入品々目別戸數

品目	福岡				鹿兒島				佐賀				計
	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計	
衣類	一〇	六	四	二〇	一	二	一	三	三	三	三	三	
調味料	九	二	五	一六	—	—	—	—	—	—	—	—	
米	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
薪炭	七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
藥品	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日用品	一	三	一	五	—	—	—	—	—	—	—	—	
什器	—	三	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	
酒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
家具	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
食料品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
麥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計(延戸數)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
(回答農家)	(二四)	(九)	(八)	(四二)									

右の品目に就て少し説明しますと、調味料といふのは醤油、味噌、砂糖、鹽等であり、什器といふのは鍋、釜、バケツ等であり、日用品の中には雑貨を含み、酒の中には焼酎が含まれてをります。福岡縣朝倉郡の某村では學用品を記入した農家が數戸ありましたが、これは家事用品の範圍へ入れるのどうかと思はれるのでここでは削除しました。さて、斯うして見ますと衣類を主要購入品としてゐる農家が、回答農家四十一戸の約半数に當る二十戸を占めて最も多く、續いて調味料の十六戸、米の十一戸、薪炭の七戸、藥品の七戸、以下順に戸數が漸減してをりますが詳細は表によつて見られたい。そして、衣類を主要な購入品としてゐる農家の多いのは何れの地方でもそうでありませうが、東北地方でさへ回答農家の約七割五分であるのに、こゝでは約五割弱にし

過ぎません。然し、この點からのみ農家の經濟状態を云々するやうなことは一概には申されんせう。調味料の十六戸は少し少な過ぎるやうでもありますし、米の十一戸は少々多過ぎるやうでもあります。勿論、米を買ふ農家が二十八戸もあつたことから見ますと、米の十一戸は寧ろ少な過ぎるとも考へられるのでありますが、こゝに記入された品目は總て主要な購入品でありますから、米を主要な購入品としてゐる農家が十一戸もあるのは多過ぎるといふのであります。尚、後でも判ることではありますが茲に序でに記して置きますと、この米を主要購入品としてゐる農家十一戸は、色々の家事用購入品のうちで米を最も重要な第一位の購入品としてゐるのであります。この點からも米を主要購入品としてゐる農家の戸數は少いに拘らず、米の購入が問題になるのであります。この米を主要購入品としてゐる農家十一戸のうち九戸は福岡縣の農家であり、この九戸のうち五戸は福岡市の農家であります。薪炭の七戸も福岡市の農家であり、こゝの農家が都會地にある爲に薪炭材料の自給が出来ないことを示してをります。次に藥品の七戸であります、このうち六戸は福岡縣朝倉郡某村の農家であり、日用品の五戸は、日用品が如何なるものを含んでゐるのか明かではありませんが、これは記入戸數が少な過ぎるやうであります。什器の三戸は鹿兒島縣某村の農家であり、この三戸の農家は什器以外の品物は一品も記入してゐないのであります、或は家事用品といふ問合せの言葉の意味を餘りに狭く解釋し過ぎた爲ではないかと思はれるのです。

續いてこれ等の購入品目に就て、金額の大きなものゝ順位別戸數を見ますと次の通りであります。

家事用購入品の順位別戸數

地區別調査集計の結果(九州)

	第一位	第二位	第三位	計		第一位	第二位	第三位	計
衣類	一六戸	三戸	一戸	二〇戸	什器	三戸	一戸	一戸	三戸
調味料	六	五	五	一六	家具	一	二	一	三
米	一一	一	一	一一	酒	一	二	一	三
薪炭	二	三	二	七	食料品	一	二	一	三
藥品	一	七	一	七	麥	一	一	一	三
日用品	一	四	一	五	計	四一	二九	八	七八

(延戸數)

即ち、回答農家四十一戸のうち衣類を最も主要な第一位の購入品としてゐるものが十六戸ありまして、衣類が相當に重要な購入品であることが示されてゐるのでありますが、この十六戸のうち八戸は福岡縣朝倉郡某村の農家でありまして、他の町村では衣類を第一位の購入品としてゐる農家よりも、寧ろ米や調味料を第一位の最も重要な購入品としてゐる農家の方が多いのであります。例へば、福岡縣の農家で第一位の重要購入品となされてゐる品目別の戸數を町村別に致しますと次のやうになつてゐるのであります。この間の事情が明らかになつて來るのであります。

福岡縣に於ける第一位購入品の品目別並に町村別戸數

品目	筑紫郡A町	筑紫郡B町	福岡市某町	朝倉郡某村	計
米	一戸	三戸	五戸	一戸	九戸
衣類	一戸	一戸	一戸	八戸	三戸
調味料	三戸	一戸	一戸	一戸	六戸

品目	第一位	第二位	第三位	計
薪炭	一	一	一	三
酒	一	一	一	三
日用品	一	一	一	三

その他の品目の夫々の重要さの程度に就ては前の表によつて推察されたいと思ひます。

それから購入方法に就てありますが、先づ農業用品に就て見ますと、肥料の一部分が産業組合を通じて購入されてゐる以外は、大體に於きまして殆んど商人の手を経て購入されてゐるやうであります。福岡市の農家は肥料も全部商人から購入してをりまして、都會地に於ける産業組合の状況を如實に現はしてをります。鹿児島縣某村の農家では肥料を煙草耕作組合からと記してゐるのでありますが、これは煙草といふ特殊のものについての特別の一つの型をなすものとして注目されてよいと思ひます。勞力は申す迄も無く農家からと記されてをりまして、この勞力の提供者が貧農であることも容易に推測されます。引續いて家事用品の購入方法を見ますと、米の購入の一部に農家組合からと記されたものが一寸注意されるばかりで、他は殆んど總て商人の手を通じて購入してゐる状態であります。

物價値上りの經驗 最初に購入の際に於ける物價値上りの經驗に就て見ますと、こゝでの回答農家は二十六戸でありまして、全調査農家の約半數の農家が回答を寄せてをるに過ぎません。特に福岡縣筑紫郡の某町及び朝倉郡の某村は回答農家が甚だ少いのでありますが、福岡縣のやうに相當進んだ農家が斯様に物價値上りに無關心で

あるのは少々腑に落ちないものがあります。回答農家二十六戸に就て、何時頃物價値上りを経験したかを調べてみますと次のやうになつてをります。

物價値上り経験農家の月別戸數(購入)

一月	一月	六月	三月	十月	二月
二月	三月	七月	五月	十二月	二月
三月	四月	八月	一月	計	二
四月	五月	九月	計	十二月	二
五月	計	計	計	十二月	二
計	計	計	計	十二月	二

右のやうに五月に物價値上りを経験した農家が最も多くて九戸を占め、それに續いて七月の五戸、四、六月の各々三戸宛、十、十二月の各々二戸宛、一、八月の各々一戸宛となつてゐるのであります。このうち五月の四ヶ月間に回答農家の約八割に當る二十戸の農家が物價値上りを経験してゐるのであります。このうち五月の九戸は全部肥料購入の際の経験でありますし、四月の三戸のうち二戸、六月の三戸のうち二戸も同じく肥料購入の際の経験であります。従つて四、五、六月に物價値上りを経験した農家が多いのは、農家が肥料價格の變動に重大な關心を持つてゐることの現はれに外なりません。

次に、どんな品物を購入した際に物價の値上りを感じたかに就て見ますと、言ふ迄もなく肥料による経験が最も多くて十七戸を數へ、殘餘の九戸が肥料以外の物品によつて物價の値上りを経験してゐる譯であります。その詳細は次のやうになつてをります。

物價値上り経験農家の品目別戸數(購入)

肥料	福岡	鹿兒島	佐賀	計	福岡	鹿兒島	佐賀	計
肥料	五戸	五戸	七戸	一七戸	一戸	一戸	一戸	一戸
砂糖	一戸	三戸	一戸	四戸	一戸	一戸	一戸	一戸
米	二戸	一戸	一戸	四戸	一戸	八戸	七戸	二六戸
釘	一戸	一戸	一戸	三戸	一戸	一戸	一戸	三戸
炭	一戸	一戸	一戸	三戸	一戸	一戸	一戸	三戸
雜品	一戸	一戸	一戸	三戸	一戸	一戸	一戸	三戸
計	計	計	計	計	計	計	計	計

即ち、肥料以外では砂糖で値上りを感じたものが最も多くて四戸、次いで米の二戸となつてをります。砂糖のやうな生活必需品で物價値上りを感じたのは、この四戸ばかりでなく他の農家でも同様に感じたであらうと思はれます。その點、肥料も同様でありまして、農業生産に不可欠な肥料の値上りは全農家で感じなくてはならない筈であります。このやうに値上り経験の物品が各農家によつて異つてをりますのは、各農家の心理的感受性の微妙さを現はすものでありませう。何れにしましても前表に現はれた物品は多かれ少かれ値上りしてゐる譯であります。その農家經濟に及ぼす影響の程が偲ばれるのであります。肥料の騰貴率はまち／＼で一定してをりませんが、大體二割から物によつては七割の値上りと記されてをります。特に値上りの甚だしいのは釘でありまして、大體十割の値上りと記されてをります。

それから、販賣の際に於ける値上りに就て見ますと、こゝでの回答農家は僅かに十四戸でありまして全調査農家の四分の一に過ぎません。特に福岡縣の如きは調査農家三十戸のうち僅かに三戸が回答を寄せてゐるに過ぎないのであります。このやうに回答農家が少いのは、農家が記入を怠つた爲でもあらうと一應は考へられるのですが、然し一面に於ては、眞實賣るもの、値上りがなかつた爲に自然記入する農家が少なかつたのではないかと

考へられるのであります。例へば「私達が賣る時には値上りなし」とか「上つた時には賣るものなし」とか「賣るものなき爲不明」等と記した農家が若干あることは、これを裏書してゐるやうであります。さて、回答農家十四戸に就いてその物價値上りを何時経験したかを見ますと次のやうであります。

物價値上り経験農家の月別戸數(販賣)

六月	二戸	八月	四戸	計	一四戸
七月	七戸	不明	一戸		

右のやうに七、八月に経験した農家が特に多いのでありますが、これは次に示しますやうに販賣物が主として麥である爲であります。値上りを経験した販賣物の品目別に農家戸數を見ますと次のやうになつてをります。

物價値上り経験農家の品目別戸數(販賣)

麥	九戸	米	二戸	菜種	一戸
大豆	一戸	大豆	一戸	計	一四

即ち、麥、米、菜種、大豆に關する限り多少の値上りはしてゐる譯であります。多くの農家がその値上りを感じなかつたのは、販賣する程の物を持つてゐなかつたか又はその賣値を値上りと感じなかつた爲であります。

物價値上りの苦痛

物價値上りの苦痛では、現在最も困るものと今後値上りされて最も困るものとに分けて訊ねたのでありますが、現在も今後も回答農家は同じく三十五戸であります。回答の無かつた農家十三戸のうち十

二戸は福岡縣の農家であり、斯うしてみますと福岡縣の農家はどうも物價高に對して殆ど無關心であるやうにも思はれます。處で先づ現在値上りされて最も困つてゐるものから見て行きますと、その品目別戸數は次のやうになつてをります。

肥料(二九)、米(五)、コークス(一)

つまり、現在最も苦痛を感じてゐるのは肥料の値上りでありまして、これが二十九戸の農家によつて訴へられてゐるのであります。米の値上りで困るといふ農家も五戸あり、コークスの値上りで最も困るといふのも一戸あります。肥料の値上りで困るといふ農家が多いのは、肥料が農業經營に不可欠のものであることから考へて當然のことではありますが、農家であり乍ら米の値上りで最も困るといふ農家が五戸もあることは、小農民の訴へて充分注目されなくてはなりません。コークスの一戸はコークスを何に使用するか不明であります。この農家が福岡市の農家であるところから見て特殊な農家であらうと思はれます。

今後値上りされて最も困るものが何であるかに就て見ますと、肥料が値上りされては困るといふ農家が二十七戸になつて、米の値上りが困るといふ農家が八戸になつてゐるので、他の品目は全く記されてをりません。これを現在最も困るものといふのと比べてみますと、肥料が二戸減少し、米が三戸増加してゐるのであります。コークスは全く見られないのです。肥料の二戸減少の内容を見ますと、福岡縣朝倉郡某村の農家で、現在は肥料の値上りで困つてゐるといふ一戸が今後で記入がなく、又筑紫郡某町の農家で現在のところ記入のなかつた一戸が、今後のところで肥料を新たに記入してゐるのであります。福岡縣に關する限りは全體としては現在も今後も肥

料の戸數に増減が無いのであります。佐賀縣では現在のところで肥料と記入してゐた農家は今後も肥料を記してゐるのであります。この肥料二戸の減少は全く鹿兒島縣某村の農家で、現在のところで肥料を記入しながら今後では米を記入してゐる自小作農二戸のためであります。従つて、この鹿兒島縣の自小作農二戸は現在では肥料の値上りで困つてゐるが、今後は肥料の値上りよりも米の値上りの方がより一層困るといふことを云つてゐる譯であります。これは質問の今後といふのを非常に短い期間の今後に解釋して、目の前の秋の米の値上りが困るといふことを訴へてゐるものであらうと思はれます。そして、米の三戸の増加は前記鹿兒島縣農家二戸と福岡市の農家で現在コークスと記してゐた農家が今後で米を記入してゐるためであります。

物價高の切抜け方法 先づ最初に、現在はどうして物價高を切抜けてゐるかに就て見ますと、こゝでの回答農家は全部で三十五戸でありまして、その切抜け方法の事項數累計は四十一件に上つてをります。今、その切抜け方法別に農家戸數を見ますと次のやうになつてをります。

物價高切抜け方法別戸數(現在)		節約		賃労働		借金關係		自給肥料	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計(延戸數)	四一	計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇

右によると節約で切抜けてゐるものが最も多くて十五戸、次が賃労働で切抜けてゐるといふものは七戸であります。この賃労働の内譯は、日傭稼といふもの三戸、單に賃労働といふもの二戸、子供の賃労働といふもの一戸、山芋掘りといふもの一戸でありまして、子供の賃労働や山芋掘り等といふのは如何にも深刻であります。次は借金關係の四戸であります。内三戸は新しく借金をして切抜けてゐるといふもの、一戸は従來の借金の不拂であります。以下出稼、金肥を自給肥料に代へて、勤勞、子供の新聞配達、苦心中等各々一戸宛あるだけあります。他の地方で相當多く見られた小作料關係の事項は全く見當りません。それから、やりきれぬ、困つてゐる、何等策なし等の「策なし及び不明」の農家が十戸を數へてゐるのであります。これは回答農家の約三分の一に當り、農家の拱手傍觀の様子が見えるやうであります。斯うして見ますと、節約と借金關係が多くの農家によつて物價高切抜けの方法として採られてゐるのであります。如何に農家の現在の物價高切抜け方法が消極的であるか、窺はれるのであります。殊に福岡縣朝倉郡某村の如きは回答農家九戸のうち節約で切抜けてゐるもの一戸、他は悉く「策なし」の農家であります。

次に、今後はどうして切抜けて行く積りに就て見ますと、回答農家は現在のところより二戸減じて三十三戸になつてをりますが、切抜け方法の事項數累計は四十一件で増減はありません。切抜け方法別に農家戸數を見ますと次のやうになつてをります。

物價高切抜け方法別戸數(今後)		節約		賃労働		副業	
七戸	一	七戸	一	二戸	一	二戸	一
計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇	計(延戸數)	一〇

勤勞	三	小作料引下げ	一	努力	一
子供の成長	三	出稼	一	策なし及び不明	一六
借金	二	多角形經營	一	計(延戸數)	四一
耕地増加	二	組合による更生	一		

こゝでも矢張り節約が最も多くて七戸を數へてをりますが、他の事項は勤勞、子供の成長の各三戸以下その戸數は非常に少くなつてをります。たゞ「策なし及び不明」だけは逆に多く十六戸を數へてをりまして、農家が途方に暮れてゐることを示してゐると思ひます。この今後の方法を現在の方法と比べながら見てゆきますと、節約は十五戸から七戸に減少してをりまして、これ以上節約の餘地が無いことゝ、最早節約ではどうにもならないといふ農家の氣持が現はれてゐるやうです。借金も一戸減じてをりますが、これも最早より以上の借金能力が無くなることを示してをるものと見られませう。賃労働も七戸から二戸へと五戸減じてをりますが、この減少した農家五戸のうち二戸は全く見透しなしと記してをり、一戸は子供の成長に期待し、一戸はたゞ努力してと記し、他の一戸は副業と記してをります。出稼は一戸で變り無く、借金不拂、自給肥料、新聞配達(子供)等は今後のところでは全く見當りません。同じ切抜け方法で今後の方が戸數が増えてゐるのは、勤勞の一戸から三戸へと「策なし及び不明」の十戸から十六戸への二つであります。前者がより一段の努力邁進を現はしてゐるとすれば、後者は寧ろ立上る氣力の失せたことを物語るものでありませうが、戸數から見れば後者の方の増加分が遙かに多くなつてゐることは考慮すべきことゝ思はれます。その他の切抜け方法では今後のところで新しく登場してきた事項であります。多角形經營、組合による更生、努力、副業、耕地増加等夫々農家の堅實な足どりが感ぜられま

す。小作料の引下げは物價高による影響緩和をこゝに求めたものでありませうし、子供の成長に期待する三戸の農家には成り行き委せの風が見られるやうです。斯うして見ますと、「策なし及び不明」を一應不問に附するならば、現在のところに於てより今後のところに於て、より積極的な方法が見られるのでありまして、自らの道を自らの力で切り拓いて行かうといふ強い意識が感じられるのであります。

續いて、物價高に對する希望を見ますと、回答農家は三十六戸でその希望事項の累計數は六十二件に達してをります。各希望の項目別に農家戸數を分けますと次のやうになつてをります。

物價高に對する希望項目別戸數

小作料引下げ	一二戸	農産物價格の引上げ	五戸	減税	三戸
肥料値下げ	一一	借金整理	五	米を安く買へるやうに	一
無利子年賦拂借金	一〇	仕事を與へよ	五	副業低利資金融通	一
耕地が欲しい	六	必需品物價の引下げ	三	計(延戸數)	六二

斯うして見ますと二、三の項目を除いては直接物價高には餘り關係のない希望が多くて、物價高切抜けに對する希望として求めた回答としては少々の感もありませんが、然し、さう感ずるのは寧ろ局外者たる第三者的の見方であつて、回答を寄せた當事者たる農家自身にしてみますれば、物價高の影響は農家經濟一般の困難の中に現はれるのでありますから、この農家經濟の苦痛が緩和され取除かれるやうな方法なら、假令それが直接物價高に關係のないやうな方法でありましても、究極に於ては同じ効果を齎すことになるのであります。

て、その點からすれば、右のやうに色々な希望項目が擧げられたのも決してはななさうです。そこで農家經濟を中心に、その收支の方面から右の希望項目を眺めてみますと、農家の支出を節減するやうにして貰ひたいといふ希望としては、小作料引下げの十二戸、肥料價格引下げの十一戸、借金整理の五戸、必需品物價引下げの三戸、減税の三戸、米を安く買へるやうにの戸等が擧げられ、収入を増加するやうにして貰ひたいといふ希望としては、無利子年賦拂借金の十戸、耕地が欲しいの六戸、農産物價格引上げの五戸、仕事を與へよの五戸、副業低利資金融通の二戸等が擧げられます。これを全體の戸數から見ますと支出節減の希望農家が三十五戸（延戸數）、収入増加の希望農家が二十七戸（延戸數）となつてをりまして、支出節減の希望農家の方が遙かに多くなつてゐるのでありますが、農家の氣持がどういふ方面に向つてゐるか知られて面白いと思ひます。尙、無利子の借金や低利資金の融通は一時的でも収入増とみたのであります。

工場其他への出稼 出稼では回答農家が非常に少なく僅かに十八戸であります。その出稼人員も十九人に過ぎません。男女別に致しますと男が八人、女が十一人でありまして、女の出稼が多いことになつてをります。そして、出稼の時期を月別に見ますと次のやうになつてをります。

月	人員	月	人員	
一月	四	五月	二	
二月	五	六月	一	
三月	二	七月	一	
四月	一	八月	一	
		九月	一	
		計	十九	
			十二月	二

即ち、一、二月頃の所謂農閑期に出稼したものが最も多く、次いで三月と五月が二人宛であります。五月に働きたに出たといふ二人のうち一人は女で専賣局に行つてをり、他の一人は男で他縣へ行つてをるのであります。出稼先を見ますと、工場へ行つてゐる者が九人で、残りの大部分は奉公であります。工場へ行つてゐる九人のうち鐵工所へ行つてゐる一人の外は、全部紡績工場や足袋工場等の平和産業に行つてゐるのであります。そして、出稼者の所屬（元の）農家を自、小作別に分けて見ますと、流石に小作農が多くて十三戸を占め、自小作農は五戸であります。

銃後の御奉公 このでの回答農家は三十七戸で、全調査農家の回答を得ることは出来ませんでした。一戸で二件乃至三件を記してゐる農家もありまして、御奉公の事項別累計數は八十件に上つてをります。そして、この御奉公の種類別農家戸數を示しますと次の通りであります。

種類	戸數	種類	戸數
國防獻金	二二	勞働奉仕	一〇
餞別	一八	祈願	二
慰問金・品	一三	乾草獻納	二
歡送	一〇	寄附金	二
		計（延戸數）	八〇
		防空監視	一

斯うして見ますと、銃後の御奉公はあらゆる部面に互つて展開されてをりまして、その熱誠さには自ら頭の下るものがあります。

第三 全國的調査集計の結果

北海道から九州に至る各地區毎の報告が一應終りましたから、次に是等を綜合して全國的な集計の結果を御報告致します。尤も、便宜上、以上に述べましたもの、中で本會支所及び出張所に依頼した分と埼玉縣の村を除きますので、やや同質的なもの、全國的集計にはなりません。調査戸數は百七十三戸ほど減じます。そして、こゝで重要なのは各地區間の差異よりは、それは、町村も亦調査農家も點々として數が少いので、寧ろ、全國的にみて果してドウあるかといふことでせう。端的に言へば一地區よりも十地區、數十戸よりも數百戸の調べでカウあるのだといふ點に重點を置いて見て戴きたいと思ひます。猶、各地區別の數字は此の際、綜合の爲に更に整理統一したところもありますので、前の各地區別と全部が全部總て百パーセントに合致してゐるとは申し難い點も一、二ありますが之も豫め御含み置き願ひたいと存じます。

一 農家戸數

先づ調査農家の數は全部で七百九十四戸、町村の數から申しますと百十六ヶ町村でありまして、之を自、小作別に分けますと次の通りであります。但し、この自、小作別は農林省の農家經濟調査等にある「耕作地の八割以上を所有するものは之を自作農とし、その八割以上を借入るものは之を小作農とし、その他のものを自小作

農とす」といふのと同じく「八割」を標準として分類したもので、表中「其他の家」とあるのは右の分類に當て嵌めることの不適當なもの、明かに農業を兼業としてゐるらしいもの、例へば、耕作はしてゐるが貸(耕)地が相當廣い謂はゞ地主や、耕地が狭くて本來の農以外の收入が寧ろ主たる兼農らしいもの、等を一括したのであります。

第一表 自、小作別農家戸數

近畿	東海	東山	北陸	關東	東北	北海道	自作農	自作兼農	小作農	其他の家	合計	調査市町村數	備考	
四	一	一三	六	八	六	一	四	四五	一八	三二	二五	三〇	五	青森、宮城、秋田、福島、四縣
八八	三五	二三	七四	六五	五五	一	一〇二	九一	五	一一	一一	四	東京、茨城、千葉、群馬、栃木の四府縣	
一四二	五八	六八	一一一	一〇二	九一	三〇	一一	一一	八	一一	一一	一	新潟、石川、富山の三縣	
一九	五	七	一三	一五	一一	四	一三	一五	一	一三	一三	七	山梨、長野、岐阜の三縣	
府三縣	大阪、京都、兵庫、和歌山、奈良の二府三縣	三重、静岡の二縣												

全 國	九 州	四 國	中 國
四四	—	二	四
二四〇	九	二三	三七
四七八	三六	四五	二七
三二	三	四	二
七九四	四八	七四	七〇
一一六	九	二六	七
三府二十七縣	福岡、鹿兒島、佐賀の三縣	愛媛、香川、徳島の三縣	岡山、鳥取の二縣

右の表からしますと調査農家（總數）を一〇〇とした場合、自作農が六、自作兼小作農が三〇、小作農が六〇其他の家が四で小作農が斷然多いことは先づ當然ですが、調査の對象たる農家を特に考慮して見ました場合、案外自作兼小作農や自作農までが相當數多いことに氣づくのであります。それが、どういふ意味をもつかは別と致しまして、以下の調査集計をみて参りますのに豫め調査農家のこの自、小作別の構成内容に注意して置くことは甚だ肝要のことと存じます。

二 耕作面積と小作地

農家の自、小作別と同時に大事なのは耕作面積の大小別です。耕作耕地廣狹別農家戸數といふ様な表も當然出來すけれども、各地區別とその全國的綜合を比較的無理なく一律に見得る様、前とも亦關聯させ、こゝでは自小作別を中心に、而も單に、一戸當りの平均耕作面積を示すに止めませう。一戸當りは見易いための便宜からで

すが極く凡その事は察知出来るかと思はれます。

第二表 耕作面積及び小作面積（一戸當り）

北海道	東北	關東	北陸	東山	東海	近畿	中國	四國	平均	備考
自作農	一〇・二二	一五・四五	一六・八四	〇〇・七六	一六・二〇	一七・〇三	二四・五五	〇八・五八	四九・六六	
自作兼小作農	一三・〇八	一六・六二	一八・七五	四八・二九	一七・一四	一六・九〇	六一・四九	五九・四八	四九・六六	
小作農	一一・〇四	一一・三〇	一一・三三	七七・三八	一一・〇〇	八・八一	八九・九五	七八・九三	四九・六六	
其他の家	二二・六九	—	四四・〇五	—	二四・五七	五・五〇	一三・四二	二四・六五	四九・六六	
平均	一一・八六	一一・六〇	一一・〇三	四八・六八	一八・〇六	七・八八	七一・二〇	六八・六六	四九・六六	
備考		記入不備の其他の家一戸を除く	同じく其他の家三戸を除く							

第三表 主要收入及びその順位

主なる收入	金額の大なるもの三つの順位			備考
	第一位	第二位	第三位	
米 二元 八 菜種 八 五 牛乳 二 六	米 二元 一 麥 五 二 菜種 二 一	麥 五 二 菜種 二 一 牛乳 一 一	菜種 六 三 牛乳 二 一 麥 一 三	
米 一元 八 麥 一 八 豆 一 八	米 一元 六 麥 一 六 勞銀 一 一	麥 一 八 勞銀 二 八 豆 一 八	麥 一 八 勞銀 二 八 豆 一 八	
米 一元 三 勞銀 一 三 其他 一 三	米 一元 三 勞銀 一 三 其他 一 三	米 一元 三 勞銀 一 三 其他 一 三	米 一元 三 勞銀 一 三 其他 一 三	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	
米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一元 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	

全國的調査集計の結果

全國	九州	四國	中國	近畿
米 七 五 菜種 二 〇 牛乳 三 六	米 七 五 菜種 二 〇 牛乳 三 六	米 七 五 菜種 二 〇 牛乳 三 六	米 七 五 菜種 二 〇 牛乳 三 六	米 七 五 菜種 二 〇 牛乳 三 六
米 六 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 六 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 六 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 六 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 六 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇
米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇	米 一 〇 勞銀 一 〇 其他 一 〇

其他 畜産 水産 商工 勞業 勞銀	二 二 七 七 七	獵恩 三	二	其他 畜産 水産 商工 勞業 勞銀	二 三 一 四 二	獵恩 二	二	其他 畜産 水産 商工 勞業 勞銀	二 三 二 二 三	獵恩 二	二	其他 畜産 水産 商工 勞業 勞銀	二 七 二 二 三	八	(四戸記入なし)
----------------------------------	-----------------------	---------	---	----------------------------------	-----------------------	---------	---	----------------------------------	-----------------------	---------	---	----------------------------------	-----------------------	---	----------

孰れにもせよ農家の収入源ですから先づ米、麥、繭の三者に止めを刺すだらうとは常識的にも考へられること
です。事實、表の全國合計を見ますと—上の欄で數の多いのは—米、麥、繭の順で之に次いで蔬菜があり他はズ
ト數が少ない。申す迄もなく、表の上欄は農家が回答記入した主なる収入の種類を合算したもので、つまり下の
三つの欄—即ち、金額の大きい順位による種類別の總て—の合計であります—但し、回答農家も單に一位のみか
或は二位迄しか記入しないものが可成り有りますので、必ずしも調査農家の三倍の數には達して居りません。そ
して、屢々申し上げました通り上の欄は農家の収入として何が一般普遍的であるかを示し—この際と雖、工藝農
産物や薬工品、或は更に勞賃の如くに相當注意して戴かねばならぬ點があります、けれども—下の欄は金額から
言つて何が主なる収入になつてゐるかを示すので、殊に第一位の欄を見て戴きますならば—總回答農家七百九十戸
の中、實に—六百戸といふ多くが米を以て第一の収入としてゐることを知り(麥は激減して)繭がその數に於て
はグッと下るが米に次ぐものであることを知る、と同時に、この欄に水産、商工、勞銀等の記載のあるのは—一
寸妙に考へられるかも知れませんが—それは「其他の家」の存在に因るものです。調査農家の中に其他の家が含
まれてゐるからです。第二位になると麥が目立つて來るばかりでなく、第三位に見るやうに各種のものが可成り
雜然と入りまぢつて參ります。詳しくは表について御覽願ひたいが、本表では又各地區間の—収入の種類—差
異も相當に出てゐると思はれますから……。

四 販賣物とその順位

収入に次いで販賣物の調べです。普通ならば生産、續いて販賣でせうが、純生産物のみ調べでなく又さう
嚴密な意味で使つた譯でもなく—それ丈に又農家の記入が多少區々になつた様な嫌が無いが、兎に角—
金額の大きな順に記入して貰つたものですから、收入調べには書かれず在る販賣物には記されたものもあつて
必ずしも前者の部分でなく、例へば繭、薬工品の如くに販賣の方で却つて數が増してゐるものも見られるの
です—但し、この點は更に調査方法としても再考を要すと考へます。そして、販賣物の調べを集計した結果表は
前表と同一形式のもので左の如くであります。

第四表 主要販賣物及びその順位

主なる販賣物	金額の大なるもの三つの順位			備考
	第一位	第二位	第三位	
北海道	米 二元 麥 八 菜種 八 豆 五 牛乳 二 外に 四	米 二元 麥 一 麥 五 菜種 三 豆 二 牛乳 一 外に 三	菜種 五 豆 三 麥 二 牛乳 一 外に 一	
東北	米 二元 麥 八 繭 二 薬工 三 豆 六 外に 三	米 二元 麥 一 麥 五 菜種 三 豆 二 牛乳 一 外に 三	菜種 五 豆 三 麥 二 牛乳 一 外に 一	(五戸記入なし)

關東	北陸	東山	東海	近畿	中國	四國
麥 五 其他 三 工 藝 一 米 八 蔬菜 三 外 二	米 六 品 三 工 五 蔬菜 四 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 六 麥 二 蔬菜 一 外 二	米 四 麥 八 工 藝 九 外 八	米 四 麥 三 工 藝 一 外 三
麥 三 其他 九 工 藝 三 米 二 蔬菜 二 外 二	米 三 品 二 工 一 蔬菜 一 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 四 麥 二 蔬菜 一 外 二	米 四 麥 八 工 藝 九 外 八	米 四 麥 三 工 藝 一 外 三
麥 三 其他 九 工 藝 三 米 二 蔬菜 二 外 二	米 三 品 二 工 一 蔬菜 一 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 三 麥 三 蔬菜 三 外 一	米 四 麥 二 蔬菜 一 外 二	米 四 麥 八 工 藝 九 外 八	米 四 麥 三 工 藝 一 外 三
其他工藝は大麻及び干瓢 (三戸記入なし)	(八戸記入なし)	蔬菜には生姜を含む (二戸記入なし)	(四戸記入なし)	蔬菜には葱頭及び筍を含む (一〇戸記入なし)	其他工藝は蘭及び除蟲菊 (二戸記入なし)	(一戸記入なし)

全國	九州
米 五 豆 三 果實 三 其他 四 園藝 五 菜種 五 工 藝 三 桑 三 竹 三 工 藝 三 品 三 木炭 九 其他 二 畜産 二 水産 二	米 二 菜種 二 煙草 六 外 九
米 四 豆 二 果實 二 其他 二 園藝 二 菜種 二 工 藝 二 桑 二 竹 二 工 藝 二 品 二 木炭 一 其他 一 畜産 一 水産 一	米 一 菜種 一 煙草 三 外 二
米 二 豆 一 果實 一 其他 一 園藝 一 菜種 一 工 藝 一 桑 一 竹 一 工 藝 一 品 一 木炭 一 其他 一 畜産 一 水産 一	米 一 菜種 一 煙草 一 外 一
米 三 豆 三 果實 三 其他 三 園藝 三 菜種 三 工 藝 三 桑 三 竹 三 工 藝 三 品 三 木炭 三 其他 三 畜産 三 水産 三	米 三 菜種 三 煙草 三 外 三
米 三 豆 三 果實 三 其他 三 園藝 三 菜種 三 工 藝 三 桑 三 竹 三 工 藝 三 品 三 木炭 三 其他 三 畜産 三 水産 三	米 三 菜種 三 煙草 三 外 三
其他園藝には花卉を含む 其他畜産は豚、羊、牛及び肉類 雑は笹葉、ぜんまい、納豆及び乾草等 (四〇戸記入なし)	(六戸記入なし)

即ち、販賣物中の主要一般的なるものは先づ何と言つても米、麥、繭の三者に指を屈せねばならぬのです。が、蔬菜も亦重要視され、薬工品の如きも注目されねばなりません。金額の上から言ふと、金額の大きなもの、第一位の欄に見ます通り——總回答農家七百五十四戸の中——米の記入が四百四十六戸で總數の五割九分を占め、繭が百二十二戸で一割六分、麥はズット下つて七十五戸の一割といふ状態であります。第二位の欄になりますと——總數は六百二十四で、割合にして見ますと——麥が斷然多くて四割一分、米が一割五分に減じ次に蔬菜が入つて來て一割一分、繭が九分といふ勘定になつてゐます。第三位の欄では——總數が三百七十九で同じく割合にして——麥

が二割四分、蔬菜が一割五分、繭が一割一分で、米は（藁工品と同様）九分といふこととなります。

又、こゝでは販賣の方法も調べたのですが、大體、前述の各地區別の際の報告の程度で、簡単に地區毎に纏め或は全国的に總括して之を一覽に供することは、殊に、販賣方法は販賣物の種類によつて甚だ事情を異にするもので、より適切には更に種類別にでもして再整理せぬことには、中々困難ですから、その勞を厭ふ譯でもありませんが此の際は省かせて載き、たゞ覺書的に地區別につき氣付いた一、三を次に記すに止めませう。一般には大體直接商人に賣り、産業組合に委託共同販賣のものあり（北海道）、青森の木炭と福島は羊は夫々組合で、繭は郡是の外、縣是と記したものが宮城に相當あり（東北）、繭は特約のもの多く（關東）、蕨は組合を通ずるもの多し（北陸）、繭は特約のものが多く（東山）、繭は組合、特約のものが多く（東海）、筍は出荷組合で（近畿）、藁工品は出荷組合によるもの多く、繭は特約のもの多し（中國）、特に記すべきものなく（四國）、菜種は組合を通じ、繭は特約のもの多し（九州）といった有様であります。

五 米の販購買

農家の販賣物中最も主要な米だけについて少し立ち入つて販賣の時期を調べませう。處で、前の表と關聯させてみますと、前のは各種の主な販賣物中に含まれる米で、こゝでは必ずしもさうした、主なといふ様な限定がなく、ての米の調べですから、寧ろこの場合の方が幾らかでも（戸）數を増してよい筈なのです。が、次に示す表からしますと、前のが五七五、これが五七一で極く僅かながら、却つて此の方が少し減つてゐます。それは、いつ賣

るかか時期に重きを置かれた爲、明かに不明とハッキリ判る様に記された以外の農家で、書き洩らされたものが幾分あつた爲だとも思はれます。若し簡単に整理するなら、記入洩れを不明欄に追加しても濟みさうですが、誤差が問題に大きな影響を及ぼす程でもないの、こゝでは一應そのまゝに致して置いてみます。

第五表 米の販賣戸數

	販賣の月別による戸數												合計 戸數	備考
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
北海道							一		三	一七	五	一	二八	不明は平均賣
東北	三				一			九	一	七	四三		六四	
關東	五	一		一			四	六	一五	一七	二〇		六九	
北陸		一					一	四	二三	二八	一七		七四	
東山	五	一一	四		一		一	一	一		一八		四二	
東海	三	一	一		一				七	三三			四五	
近畿	一五	五	一	三	四		一		一〇	六五	一		一一〇五	

中國	四國	九州	全國
一二	五	五	五三
三	三	一	二六
			六
			六
			九
一	一	二	二
			六
			六
			二
			四六
一四	三	三	一〇五
二八	二	七	二七
三			七
六一	六〇	二三	七五
			七一

この表によりますと販賣の時期は、三月から八月迄は問題なく少く、二月と九月が匹敵し、また一月と十月が匹敵して、多いのは十一月と十二月です。不明を除いた總數五百六十四を基にして割合にしてみますと十一月が一割九分、十二月が四割九分で、兩者で總數の七割近くを占める勘定になり、更に九月以降十二月迄の累計では總數の八割を占めることになります。米の出來秋賣りの状態は如實に示されと思ひます。この事は自、小作別にすると一層關心の深いものですが、然し特にこゝに一覽表にして表はし得る程數的に著しい差異が示し得ない様ですから割愛致します。

それから之を獨立の一應整備した一表として見て、各地區毎に調査農家に對する販賣農家の割合をみることも或は必要かも知れませんが、それは簡單に算出も出來、又さうしたことより寧ろ逆に購入農家の調べの方がより大きな關心事かと存じます。それに右の調べは米を何月頃から賣るかといふのに、之は農家が何月頃から飯米を買入れるかの問題で—調査の對象たる農家を考へますと—一層切實の様に思ふのです。

第六表 米の購入戸數

	購入の月別による戸數												合計 戸數	備考		
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月				
北海道														一		
東北	七	四	一二	一八	六	一二	一〇	五	五	一				一	八一	
關東	一	一	三	四	九	五	一二	五		一					四一	
北陸		二	三	二	二	四	七	一一	三	一					三六	
東山	一	四	二	二	五	三	三	四	二	二					二九	
東海	一			一	四	五	七	八	七	一				一	三五	
近畿	一		三	三	五	五	五	一四	一一	九				三	六一	
中國		一			五	五	七	六	四	一					二九	
四國	一	一	二	三	二	三	六	一〇	二	二					三二	
九州	一	一	二	一	四	四	四	六	三					二	二八	

全國	一三	一四	二七	三四	四二	四六	六一	六九	三七	一八	三	二	七	三七	三
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	----	---

農家で米を買入れてゐるものは、右の調査集計表によりますと——特殊の北海道を除いては——調査農家に對する購入農家の割合が、最も低い北陸で三割二分、大體は四割臺で、割合の高いところで九州の五割八分、東海の六割もあります。東北になりますと八割九分といふ飛び抜けて大きな數字を示して——つまり、東北では米を賣るものより買ふものゝ方が餘程多い（同様の傾向は九州にも多少見られる）ことを示して——居りますが、北海道を除いた全國的總平均では四割九分といふ計算になるのです。始めから絶對量の不足で買入れるのではなく、一度米を賣つて又後で買入れるといふ事情のあることも斟酌せねばならぬでせうが、兎に角く農家の約半數が米を買入れてゐることは輕々に見過ごしてはならぬと思はれる。

そして、この米の購入の時期を調べてみると——販賣の折に示された程に際立つた差異は見られません。これにしても——七月から八月にかけての購入（戸）數が著しく多い。この兩月だけで總數——不明を除く三百六十六——の三割六分を占めてゐる。十一月、二月は當然少なく、年を超して一、二月も比較的少く三月頃から急にも確實に増し、八月に至つて最高潮に達して九、十月と急減致しますので、五月から八月迄の四ヶ月で（同上）總數の六割を占める状態にあります。自、小作別による購入時期の差は——直ちにこゝに數字を以てハッキリ示し得る程ではないが——或る程度迄は觀察し得る様に思ひます。

六 購入品とその順位

一般に農家を買入れる主な物品と言ひますと種々雑多なものが這入り込んで來ますので、大體農業用のものと家事用のものとに二大別して示すことにします。表の集計様式は前の販賣物の場合と全く同一の形式です。

先づ、農業用品で買入れるものでは肥料を第一に、日々使ふところの農具等が凡そ之に次いで擧げられるらうとは容易に豫想の付けられることと思ふ。實際、次に示す表の上欄（主なる購入品の全國合計）をみますと——總數千七百六十六の中——肥料が七百七十三で總數の四割四分を占め、農具が六百十三で同じく三割五分、その次に位する飼料になりますと、それはズット下つて百十五の僅か七分といふ有様ですから其の他のものゝ割合は推して知るべしです。

第七表 主要購入品及びその順位（農業用品）

主なる購入品	金額の大なるもの三つの順位			備考
	第一位	第二位	第三位	
北海道 肥料三 飼料八 農具二 石油一	肥料三	農具六 飼料六 石油一	農具九 飼料二 藥品二	農具には馬具を含む
東北 肥料八 農具四 藥品八 木炭六 蠶具五 外に三	肥料八 農具二	農具三 木炭六 藥品四 蠶具一 外に五	農具三 藥品四 蠶具四 外に七	農具には馬具を含む （一戸記入なし）

關東	北陸	東山	東海	近畿	中國	四國
肥料二 農具七 飼料五 種苗三 蠶具一 外に八	肥料三 農具六 電力二 外に七	肥料三 農具三 蠶具三 外に三	肥料五 農具五 飼料六 蠶具六 外に二	肥料二 農具三 飼料三 種苗六 外に九	肥料九 種苗七 外に七	農具七 肥料七 飼料九 種苗六 外に四
肥料七 農具二 飼料一	肥料六 農具四 外に五	肥料三 飼料一 外に五	肥料一 飼料一 農具三 肥料三 外に五	肥料一 飼料一 農具六 肥料一 外に三	肥料七 農具二 外に五	肥料七 農具二 飼料九 肥料一 外に二
農具七 飼料九 種苗六 肥料二 外に六	農具七 電力五 肥料四 外に七	農具二 蠶具二 飼料八 藥品二 外に五	農具三 飼料三 肥料一 農具三 肥料一 外に三	農具三 飼料六 藥品四 肥料一 外に三	農具五 種苗四 肥料一 外に五	農具五 種苗四 肥料一 外に二
農具一 種苗六 飼料五 肥料二 外に一	種苗六 農具二 電力二 農具二 外に五	農具三 藥品七 飼料三 蠶具一 外に八	農具三 飼料四 肥料三 農具三 肥料二 外に二	農具三 藥品一 飼料四 種苗二 外に七	農具二 肥料二 外に三	農具三 飼料二 肥料一 外に一
(一戸記入なし)	電力の電力は新潟、動力は富山の記入(四戸記入なし)	農具にはリヤカーを含む	雑は農用被服	(二戸記入なし)	雑は藁及び糸	農具には荷車、リヤカーを含む

九州	全國
肥料四 農具三 種苗五 勞力三 牛馬二 藥品一	肥料七 農具三 蠶具三 種苗三 勞力二 牛馬一 藥品一
肥料三 農具三 飼料四	肥料三 農具三 飼料四
肥料二 飼料七 農具三 種苗四 勞力一 牛馬一 藥品一	肥料二 飼料七 農具三 種苗九 勞力八 牛馬六 藥品三 木炭二 石油三
肥料三 農具三 飼料四	肥料三 農具三 飼料四
肥料一 牛馬一 勞力二	肥料一 牛馬一 勞力二
勞力は雇入勞賃の意で、牛馬も同様畜力の意ならん(一戸記入なし)	雑は農衣、藁、糸、袋紙、笹葉、木炭原木、竹等(九戸記入なし)

而も、金額の點から申しますと全く文句なしに肥料が第一に擧げられ、金額の大きなもの、第一位の欄をみますと、各地區ともに一樣に絶對多數ですが、全國的にみても回答總(農家戸)數七百八十五のうち實に七百六十、即ち九割七分といふ絶對多數を占めてゐるので、今更ながら肥料に對する農家の「當然の強い關心」を——殊に回答農家の中には其他の家も含まれてゐるので一層——痛感するのであります。第二位の欄では農具と之に次いで飼料が多く各々總數——六百四十三——の七割一分、一割一分といふことになり、第三位の欄では少し趣を異にして——總數三百三十八に對する割合に於て——農具が四割二分、次いで種苗の一割六分、藥品及び飼料が同じく一割二分の計算になります。猶、この際の購入方法も調べましたが販賣物の場合と同じ様な譯で、特に目立つた點では一般に肥料を——産業組合等により——共同購入してゐるものが相當數多くあること、藥品は農會から、又數は少ないが蠶種の様な特殊のものでは特約的のものが可成り多いことを、一言附記して置くに止めま

次に、家事用品は種類が甚だしく雑多々様で適當な整理も中々困難なのですが、不満足ながら一應次の様に整理しましたので左表によつて見て戴きますなら、上欄——主なる購入品の全國合計總數千八百五十四の中——被服類の五百十八が最も多く總數の二割八分を占め、味噌醬油等の其他の調味料が二百二十七で總數の一割二分を占めて之に次ぎ、副食物は百八十で一割弱、日用品雜貨は百六十一で九分弱、薪炭及び酒は等しく百四十臺で八分弱といふ順に、以下のものはズツトその數を減少して居ります。

第八表 主要購入品及びその順位(家事用品)

關東	東北	北海道	金額の大なるもの三つの順位			備考
			第一位	第二位	第三位	
被服 三 薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	被服 三 薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	被服 三 薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	薪炭 二 米 三 副食 二 日用 三 糖 三 鹽 三 交際 二 學用 二	光熱は石炭及び石油で薪炭を除く日用品は雜貨を含む日用品雜貨、以下同様(一戸記入なし) 副食は魚類のみ (五戸記入なし) 調味は鹽砂糖を除く其他調味、以下同様 (五戸記入なし)

九州	四國	中國	近畿	東海	東山	北陸
薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一	薪炭 七 米 三 被服 二 日用 二 調味 一 副食 一
(七戸記入なし)			(一三戸記入なし)	(七戸記入なし)	(三戸記入なし)	副食には魚類を含む食品は米麥を除く、以下同様(一〇戸記入なし)

全國		雜品一		雜品二		雜品四	
被服 ^{五八}	醫藥 ^五	被服 ^{三三}	醫藥 ^三	被服 ^{二四}	醫藥 ^三	被服 ^八	醫藥 ^五
米麥 ^六	副食 ^{八〇}	米麥 ^六	副食 ^七	米麥 ^三	副食 ^{七〇}	米麥 ^一	副食 ^{三九}
其他 ^七	食品 ^七	其他 ^四	食品 ^三	其他 ^六	食品 ^六	其他 ^六	食品 ^六
鹽砂 ^九	糖 ^三	鹽砂 ^三	糖 ^三	鹽砂 ^三	糖 ^三	鹽砂 ^三	糖 ^三
其他 ^{三七}	調味 ^三	其他 ^六	調味 ^六	其他 ^九	調味 ^六	其他 ^三	調味 ^三
酒 ^{一〇}	煙草 ^四	酒 ^五	煙草 ^三	酒 ^六	煙草 ^{一六}	酒 ^{二五}	煙草 ^二
嗜好 ^九	其他 ^二	嗜好 ^二	其他 ^三	嗜好 ^四	其他 ^三	嗜好 ^三	其他 ^三
薪炭 ^四	電燈 ^五	薪炭 ^四	電燈 ^三	薪炭 ^四	電燈 ^七	薪炭 ^五	電燈 ^五
其他 ^三	光熱 ^三	其他 ^六	光熱 ^三	其他 ^三	光熱 ^五	其他 ^五	光熱 ^五
日用 ^二	家具 ^二	日用 ^三	家具 ^一	日用 ^五	家具 ^五	日用 ^四	家具 ^{一五}
雜貨 ^二	學用 ^三	雜貨 ^一	學用 ^二	雜貨 ^五	學用 ^四	雜貨 ^七	學用 ^七
新聞 ^四	雜誌 ^七	雜品 ^一	雜品 ^二	新聞 ^四	雜誌 ^七	雜品 ^四	雜誌 ^七

(五一戸記入なし)

其他調味は主として醬油及び味噌
其他嗜好品は茶及び菓子等
其他光熱は石炭及び石油等
實際學用は實際品及び學用品
雜品は木材、建築用品、大工道具等

そして、金額の大きなものゝ順位からしますと、第一位の欄に見ます如くに——回答總(戸)數七百四十三に對する割合にして——被服類が矢張り最も多く三割五分、其他調味料が一割二分、副食が一割、日用雜貨——及び米麥が共に各々——九分、酒が七分、薪炭が六分、其他食品が之に次ぐといった工合です。第二位の欄では——總數が六百五十三で——被服が二割七分となつて、こゝでは其他調味、副食、酒に次いで鹽砂糖類が九分を占め日用雜貨や薪炭よりも多いし、第三位の欄になりますと——總數が四百五十八で——被服が一割八分に減り、其

他調味や薪炭に次いで醫藥が一割一分を占めて日用雜貨、副食よりも多いといふ様に多少内容的に差が見られますが、何と言つても第一に推されるのは被服類です。而も、此等の家事用品は總じて直接商人から買入れるものが大部分で、産業組合等により共同購入してゐるものは殆んど指折り數へられる程しかありません。購入品の種類とその雜多さにも因るのでせう。

以上で大體、農家經濟の基礎的事情に關するものを一通り申し述べましたので、引續き物價高に關する調査の結果を、同様集計表に従つて順次御報告致したいと思います。

七 物價値上りの經驗

最近に於ける物價の昂騰が農村、農家へどうひびいたか、現實に世人の注目を惹いた際、逸早く之を調査し公にされたものに中央農林協議會の「物價高の農山漁村に及ぼせる影響」(昭和十二年七月)の一書がある。それは香川、島根、福岡等の十五縣、一市一町二十ヶ村の調査報告書であり、當時に於ける販購買品その他の價格の値上りが詳しく克明に集録されてゐる。

こゝでは、さうした量的な價格の値上りは一應——集計外に——別にして先づ、いつ何を買つた時値上りを感じたのか、農民自身の實際に感じた經驗を調べることにしました。勿論、回答し記入された時(と物と)が果して——質問票にある——最初のものかどうかは可成り疑問もありますが、記されてある以上相當強く印象づけられたものとして——必ずしも最初の經驗でなくて、それで差支へなく——充分の意義と價值を持つものと考え

ものによつての時期の差が關聯して考へられるからであります。次に、購入品の種類別による經驗——尤も、それは結局一戸につき一種類の値上り經驗が記されることになり、ますので、前の月別による經驗戸數と同數の——戸數を見ることにします。判り易く言へば、何を買つた時に物の値上りを知つたかの調べです。

(二) 購入品の種類別による戸數

近畿	東海	東山	北陸	關東	東北	北海道	肥料	米麥	醬油 砂糖	其他 食品	酒其 嗜好品	燐寸	釘	金物 類	其他 日用品	地下 足袋 靴	其他 被服	石油 其他 光熱	農具	飼料	雜	合計 回答 戸數	
八六	二四	三四	二二	三五	二五	一一																	
七	一		一	九	五																		
五			七	七																			
一	一		四																				
二	一	七	一二		九																		
一〇	四	四	八	二	九																		
一		一	一	三	四	六																	
三	二	六	二	二	二																		
三		一	六																				
一	八		三	一	一	二																	
三	一		一二	六	一一	四																	
三	一	一	二	二	一	一																	
	二	一	八	四																			
三	三	一	三	一		一																	
		七	二	三	三	一																	
一二八	四八	六三	九三	七五	七〇	二八																	

全 國	九 州	四 國	中 國
三一〇	一七	三一	二五
二八	二	一	二
二九	四	三	二
八			一
三二		一	
六〇		一五	八
二四	一		七
二三		四	二
一四	一	三	
二三			七
四二		二	三
二〇	一	二	六
一八		二	一
一三		一	
一九六六三	二六	六七	六五

この表によつて一見して知られるのは肥料が他を壓して斷然多いことです。全国的にみると總數の四割七分のものが肥料を買つた時の値上りを先づ回答して居ります。この平均割合に近いものは關東(四割七分)、四國(四割六分)、東海(五割)、それに東山(五割四分)及び北海道(四割)で、東山よりも割合の高いのは九州(六割五分)と近畿(六割七分)、北海道よりも割合の低いのは中國(三割八分)、東北(三割六分)、北陸(二割四分)です。兎に角、値上り經驗記入の約半數が肥料によつて占められ、而も——一般に——農家が肥料を買入れる時期は三月乃至六月迄が最も多いことを思ひ合せらば、前の月別戸數の表に於て三月から急に戸數の増してゐることも略々納得が行くでせう。それから肥料に次いで多いのは——或は意外に思はれる方も多いでせうが——燐寸で總數の九分を占め、嚮に主要購入品調べの際に最も多かつた被服類も地下足袋、護謨靴を除いた其他被服では總數の六分に過ぎない有様で、寧ろ農家で買入れる米麥の値上りを記したものが——僅かとは言へ——四分を占めてゐることが注目されるべきでせう。が、もつと端的に言ふなら肥料(或は農具、飼料等)ばかりでなく、極く細々し

た隣寸(或は釘)等が案外に多いことを注意してみても戴きたい。
 然し、物の値上りは——たゞ購入の際だけでなく、逆に——販賣の際にも経験されたに違ひないので、等しく此の方面も併せて調査しました。いつ何を賣つた時値上りを経験したかの調べで、集計の結果は矢張り月別による戸數から始めます。

第一〇表 物價値上りの經驗(販賣の際)

(一) 販賣の月別による戸數

	經驗の月別による戸數(販賣の際)												合計 戸數	備考		
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			不明	
北海道					一			三	六				一		一二	
東北			一			一〇	一二	一一	二	一					三九	
關東			一			一一	一八	九	八	三			一		五一	
北陸			三	二	四	七	四	一一	一				一		四〇	
東山					一	九	一八	七	一						三六	
東海	一			一		七	一一	八	三	一			三		三八	

近畿	中國	四國	九州	全國
	一			三
	一	一		七
四	二	一		三
二	一三	四		一二
九	九	九	二	七五
一六	一三	一八	七	一一
一七	七	一二	四	八一
四		三		二八
三				八
一		一		一
三				九
三	四六	五一	一四	八三
六二				八九

(備考) 本調査の時期は八月乃至九月現在なる故、九月の或部分、少くも十月以降は前年の同期を意味す

右によりますと販賣の方面では購入の際に較べて著しく戸數が少なく、調査戸數に對する經驗回答の總戸數が四割九分で——かゝる事情は單に心理的な觀點からのみでなく、寧ろ農家經濟そのもの、基本的な事情から解釋しなくては判りかねると思ひますが、深くは觸れず——地區別にその割合をみますと、四國が六割九分で最も高く、東海と中國とが同じく六割六分、次いで東山の五割三分、關東の五割、以下全國平均より低いものは近畿の四割四分、東北の四割三分、北海道が四割で北陸が三割六分、最も割合の低いものは(これも何故か)九州で僅か二割九分です。そして、この順位からしますと前の購入の際に回答の多かつたところ必ずしも多くなく、少いところ必ずしも少なく合致して居りません——これも各地區別の農家經濟事情の差異が考慮されねばならぬ一點かと思ひます。が、經驗の月別戸數をみますと六、七、八月が特に多く夫々總數——但し不明の八戸を除く

三百八十一戸——の二割、三割一分、二割一分に當つて、この三ヶ月だけで實に七割一分といふ大きな割合を占めてゐるのである。これは果して購入の際の様に、販賣物の種類と關聯させて了解されるものでせうか、一應簡單に種類別による戸數をみることにします。

(二) 販賣の種類別による戸數

中國	近畿	東海	東山	北陸	關東	東北	北海道	米	麥	繭	豆	蔬菜	茶種	製及び同 品及等 木炭及び 鶏卵及び 畜産 まぜん毛 皮類 金物	雜	合計 戸數	備考	
一	一〇	九	六	二	九		三											
一九	三三	一四	一八	一	二六	一二	六											
九			五	一	一二	一二					一							
一	四																	
二	五	一二	七	三			一											
八	二			一一	一	一〇												
				五		一												
		一		三		二												
一	一			二														
				七														
五	二			一														
		二		四	一	二												
四六	六二	三八	三六	四〇	五一	三九	一二											
金物類は古金	金物類は古金及び古 い梨	雜は海苔及び伊勢表		雜は勞銀及び襤褸	雜は大麻	雜は秣及び糠												

全國	九州	四國
四五二七三	二	三三五
三九	九	
六	一	
七三		
一四一	一	八
九	一	三
七		
七		二
七		
八		
九三八九	一四	五一

この販賣物の種類別——購入調べと同様、前の月別による戸數と同數の——戸數では麥の記入が目立つて多く、全国的にみると總數の四割四分を占めて、これが月別——の戸數——に相當影響してゐることは決して想像に難くない。北陸の如くに特異なところでは、麥以外のものゝ考慮が必要となつて來る——こゝでは販賣物の種類が甚だしく雜然として居ります。そして、麥に次ぐものは全国的にみて米が一割二分、菓及び菓製品が一割一分、繭が丁度一割で、菜種の八分を除いては他のものは誠に寥々たるものです。

八 物價値上りの苦痛

値上りを経験した時期や物の種類は區々でせうが、何の値上りで最も困るかの調べを現在と今後とに分けて見ます。これも、最も困るものといふので一戸につき一種類の回答ですから、戸數がそのまゝ(事項)件數を示すのであります。集計の結果は先づ現在——最も困るもの——の調べから始めます。回答(戸)數は次表に示すが如く——七百〇九で——調査總(戸)數の八割九分に當ります。

第一一表 物價値上りの苦痛（現在）

地区	現在最も困るもの、種類別による戸數										合計 戸數	備考		
	肥料	農具	飼料	米	食品	被服	日用品	光熱	勞銀	小作料			税金	雜
北海道	一七	一	一	三八		六	二	一	五				二七	光熱は石炭
東北	二四		一	三三		六			二				七三	光熱は薪炭 雜は炭材料及び醫藥
關東	七一		一	一二	三	一	五		一			一	九五	食品には砂糖を含む 光熱は石油
北陸	六四	三	三	八	七	七	一		一			一	九八	食品には酒煙草を含む 雜はゴム製品
東山	五五	一		一		二	三					二	六五	雜は學費
東海	四四			七		一	二						五四	被服は地下足袋
近畿	一〇一		五	一〇	一	二	七		一				二八	被服には地下足袋を 含む
中國	五九		一	三	一		四		一				六九	食品は乾物 光熱は石油
四國	五二			二	一		八		一				六五	食品は醬油 雜は材木
九州	二九			五									三五	雜はガラ但し意味不 明
全國	五一六	五	一一二	八六	一三	二二	三一	一一	三	一	三	六	七〇九	

（備考）北陸及び東山の馬は便宜上農具の欄に記入した

現在、最も困るのでは肥料の値上りを指摘したものが——五百十六で、總數七百〇九の——七割三分といふ絶對多數を占めてゐます。農家が肥料で苦勞するのは、いつもの事ながら、斯く多數の回答が等しく肥料に集中してゐるのは注意されねばなりません。それから、農家が買ふ飯米の値上りで困るといふのが——八十六、即ち總數の——一割二分で、この外の日用品や被服等はズット割合も尠なくなりますけれども、それだからと言つて輕々しくは見過ごされません。次に、斯うした事情が続いて今後何で最も困るかを見ませう。

第一二表 物價値上りの苦痛（今後）

地区	今後最も困るもの、種類別による戸數										合計 戸數	備考		
	肥料	農具	飼料	米	食品	被服	日用品	光熱	勞銀	小作料			税金	雜
北海道	一四				一	二		四				二	二三	雜は一般にとの記載
東北	五二			二五		九						二	八八	雜は醫藥
關東	七八			九		三	七				三		一〇〇	
北陸	八七	一	一	七	二	一	一	一			二		一〇三	農具には馬を含まぬ

東山	東海	近畿	中國	四國	九州	全國
五七	三七	九六	五八	五三	二七	五五九
	四			一		六
	一〇	四				六
三		一一	二	一	八	六七六
		二		一		六
二		一		一		六一九
		六	七	一三		三四
				一		七
一		一				一
						三
						三
一						五
六四	五二	一一一	一六八	七一	三五	五七二五
光熱は電燈料	農具には農用車、農用品を含む		雑は一般にとの記載			

今後の調べは、大體現在の値上りが前提となつてゐるので、前表に較べてサウ著しい差を見せないのは寧ろ當然でせう。そして、回答(戸)數は——七百二十五で——現在の場合より幾分多く、調査總(戸)數に對する割合が九割一分となつて居ります。回答された中で占める肥料——五百五十九——の割合は七割七分で現在より四分多く、この事は今後は値上りで一層困ることを示します。これに反して米は——七十六、割合にして——一割に下つて現在より二分少ないが、それだけ苦痛が軽くなると言ふのではなく、より以上に困る——米以外の——ものが在るからだと見るべきです。調査の時期が八月乃至九月現在ですから、米の値上りで今後益々困るといふ苦勞

が多少とも薄らぐのも考へ得られることですが、全體としての回答數が殖え、肥料その他で増加してゐる事情をみるならば容易に御了解が行くことと思ひます。兎に角、現在も今後も一般には大した違ひを示さないが、個々にみるとその間可成りデリケートな差の在ることに注意して戴きたいのです。

九 物價高の切抜け策

物價値上りの經驗や苦痛の實情を調べました後には、そこから生み出される物價高の切抜け策も當然考へられねばならぬと思ひます。尤も、切抜け策は上から行く方策と下からの——つまり、農民自身の採る——切抜け方法とがあります。こゝでは後者の、農民自身が切抜け又は切抜けんとする具體的な方法を調べたのであります。豫め幾つかの方法を例示する様なことをせず全く自由に記入して貰つたので、回答が甚だしく雑多區々となり爲に適當な整理も困難なのですが、成るべく生地のみを生かそうと思ひ不揃ながら次の如く集計致しました。

集計表は先づ現在どうやつて物價高を切抜けてゐるかの調べで——但し、その切抜け方法は一戸必ずしも一類に限らず二、三種類を併記したものもあつて事項數と回答戸數は一致しません、が——方法を一應記入した回答總戸數は丁度七百戸で調査總戸數の八割八分に當ります。尤も、この中から策なし及び不明の五十五戸——但し、この場合は事項數と戸數は同じとして差支へなし——を除くと右の割合は八割一分になります。

第一三表 物價高の切抜け方法(現在)

	北海道	東北	關東	北陸	東山	東海	近畿	中國	四國	九州	全國
節約	一三	三一	二二	四二	三六	一一	六九	三三	三五	一五	三〇七
自給	五	二六	一八	二八	一三	一七	二一	二五	一八	四	七一七
借金	二	七		一三	一			三	二		二八
やりくり		一二	一二	八	五	五	一〇	五	六	一	六四
農務	一	三	五	五	七	二	一七	一	四	一	四六
農業經營關係		一一	五	一三		二	八	一五			五四
小作納料減	三	七	八	八		五	一六		三	八	五八
賃勞行商			四	一		四	三		七		一九
副業增加			七								一〇
共同購入			二	二	一						六
子供つて			二		三					一	二
其他		一							一		五
策なし不明		一	一一	五	六	五	九	五	二	一一	五五八
以上事項計	二四	九九	九四	二五	七二	五一	一五三	八七	七八	四一	二四七〇〇
回答戸數	二三	七九	七八	一〇二	六七	四九	一二六	七〇	七一	三五	
備考		其他は兒童給食	子供は送金及び子供を賣つて		共同購入は組合利用子供は俸給及び女中		行商多く而も和歌山の一ヶ村のみ		其他は米麥の値上がり	子供は新聞配達	

右の表の事項數からしますと節約、自給自足といふのが最も多く、策なし不明を除く、總數七百六十九に對して——四割を占めて他に抽んで、これに次ぐものは借金の二割三分、グット下つて勤勞の八分です。賃勞、出稼、行商や小作料延納、輕減或は農業經營關係等は全體六、七分といつたところですが、斯様に纏めて整理してふと實は各事項別の内容が判りかねまして、例へば農業經營關係にしますと——次の括弧内數字は件數——自給肥料(一八)、金肥節約(一五)、増産(五)、經營合理化(二)、多角形經營(一)、養蠶(一)、養蜂(一)、米麥作(二)、種牛を(一)といふやうな色々のものが入り混つてゐるのです。尤も、夫等についての詳しくは各地區別の報告を参照して戴きませう。

進んで今後の切抜け方法になりますと——集計の様式は略々右と同じで、又——前の物價値上りの苦痛の場合と同じく、現在と今後との間に著しく飛び離れた大きな差異を見せるやうなこともあります。回答總戸數——六百八十二戸——の調査總戸數に對する割合は八割六分で、この中から策なし及び不明——の百四十一戸——を除いたものは六割八分です。

第一四表 物價高の切抜け方法(今後)

北海道	節約	借金	やりくり	勤勞	農業經營關係	小作納料減	賃勞行商	副業增加	組合強化	子供つて	農業策なし	以上事項計	回答戸數	備考
七	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	四	二〇	一七	

東北	二三	一一	三	一四	九	一〇	七	二	一二	一	七	九九	八一	其他は國家に願ふ
關東	八	一	一	九	六	五	二	九	二	四	二六	七三	六七	其他は拂下げ米、物價低落を待つ等
北陸	三九	一七		七	一一	一四	三	五	一	四	二二	二八	一〇五	其他は税引下げ、病氣がなければ等
東山	二〇	八	四	六	一〇				一	二	一五	六六	五九	子供は女中其他は産兒制限及び地主にたよる
東海	六	一五		一	一	四	四			一	一二	五〇	四六	其他は肥料値下げ
近畿	四七	二七	四	一三	三二	一三	六	四	二	一	二〇	二六	九一	三四
中國	二八	六	三	七	五	一二	一	三		二	一三	八〇	七〇	其他は醫藥及び一般物價値下げ
四國	二六	一三		一一	一		四			一三	七	七八	七〇	農政は貧農本位の政策が大部分
九州	七	二		四	三	一		一	三	一六	四一	三三		
全國	二一一	一〇四	一五	七五	七九	五五	三〇	二五	二二	二〇	二七	四一	六八	二

この表からすると、策なし及び不明を除く總事項數——六百六十三——に對する割合にして節約、自給自足が三割二分を占めて矢張り最も多く、借金が一割六分で之に次ぎ、農業經營關係が一割二分、勤勞が一割一分、小作料延納、輕減が八分といふ順になつて居りまして、これを前表の割合に較べてみますと節約、自給自足が現在

よりも八分の減、借金が同じく七分の減、之に反して農業經營關係は現在よりも八分の増、勤勞は同じく三分の増、小作料延納、輕減も亦一分の増となつて居ります。この事は農民が現在より以上に節約、自給自足を續けて行くことの困難なこと、借金の途も現在以上には至難なこと、従つて物價切抜けの方法が農業經營の改善、より一層の勤勞へと積極的に進み、他面又、小作料の輕減もより多く望まれてゐることなどを如實に示すものと思ひます。猶、こゝでは今後に對する切抜け策なく方法不明と記したものが甚だ多いこと、事項別の欄に組合利用、強化と農業政策が新たに入つてゐることを特に注意され——備考欄も参照され——たい。

一〇 物價高切抜けについての希望

右の切抜け方法に關聯して農民、農家が實際何を希望してゐるかを調べました。これも——豫め何等限定を設ける様なことをせず——全く自由に記入して貰ひましたので、中には必ずしも物價高の切抜けに直接關聯を持たぬ様なものもありますけれども、農民一般の希望として、寧ろ有るがまゝに整理し集計したのであります。前の切抜け方法——特に今後の場合——に於てそうした同じ事情が窺はれたのですが、こゝでも表題に餘りこだわらずに相當ゆとりを持つて見て戴きたいと思ひます。回答總戸數は——六百九十八戸で——調査總戸數の八割八分に當り、又その希望事項は——これ亦一戸一種類に限りませんので——總數千百三十八(件)でありまして一戸平均一・六(件)となつて居ります。そして、夫等の希望が主にどういふ點にあるのかは次の一覽表によつて見ることにさせよう。

第一五表 物價高切抜けに對する希望

道県	必需品 下値	肥料 下値	小作 下値	税金 軽減	借金 金融	農産 物値	副業 賃上	農工 均格	統制 救済	生活 安定	小作 法定	其他 事項	以上 合計	回答 戸數	備考
北海道	三	二	五	一		一二					二		二五	二二	
東北	二三	一四	二一	九	一五	二三	五		二		八	二二	二二	八一	其他は農家組合、産業組合の助成發展
關東	六	三〇	一九	一	八	五	三	一四	一四	三	二	五一	一〇	七三	其他は組合強化、二毛作等
北陸	三四	二八	五二	一八	一六	五	三	六	一	二	三	一二	八〇	一〇七	其他は農具等の無償貸與、農業保險等
東山	八	二七	一〇	八	三	五	二	三	一二			二	八〇	六四	其他は農業指導
東海	一五	一四	二四	五	五		四	一	一	七		九	八五	五一	其他は耕地の擴張
近畿	三一	五四	五五	一七	一四	一三	一〇		一八	二	六	四二	二四	二六	其他は農産損失保障、經營指導等
中國	二九	一九	四二	二〇	七	一〇	一			三	一〇	一四	一	六六	
四國	一四	二九	一八		一一	三	六	七	五	一二		四	一〇	七一	其他は組合利用、指導等
九州	四	一一	一二	三	一六	五	五					六	六二	三六	其他は耕地の擴張
全國	一六七	二二八	二五八	八二	九五	八一	三九	三一	五三	二九	三一	四四	二三八	六九八	

右の種類別は、別に系統立つた分け方でなく大體同種類の希望を纏めただけのものですから、分け方に就て、猶、色々吟味されるべき點も多いとは思いますが、兎も角、最も多いのは小作料引下げの希望で、二百五十八——總(件)數の二割三分を占めて、肥料値下げの——同じく總(件)數に對する——二割といふより三分も多いのです。尤も、これには調査の對象たる農家が主として小作農(組合關係のもの)であることも考慮されねばならぬ、が、卒直な農民の希望が肥料の値下げと相並び時に之に抽んで、小作料の引下げに斯くも多數集中してゐることは充分注視して戴かねばならぬと思ふ。そして、肥料に次いで第三に位するのは必需品の値下げ——百六十七——で總(件)數の一割五分に當る——但し必需品と言へば肥料等も含まれる譯ですが、それは省いてありますし、その外の各種類別も夫々重複せぬ様に計算を致しましたから、各希望(件)數は決してダブッテはゐない——のです。四、五、六位の借金々融、税金軽減、農産物値上げの希望は同じく總(件)數に對して七、八分の程度、以下、統制調節救済や其他、副業、賃上げ等の希望はズットその割合が減じて居るのです。然し、備考欄をみても推測される様に個々農民の希望は可成り多種多様であり、且つ農家相互の間には矛盾する——つまり、全く相反する様な——希望も現はれるのであります。例へば、農産物の値上げ——この中には當然米麥が含まれ否、寧ろそれが非常に多いしその値上げ——を最も希望する一方に、必需品としての米麥の値下げを強く要望するものがあり、農作勞賃々上げを希望する他方に又、これが賃下げを要望するものがあるといった工合なのです。農民だから、農家だからと言つて一色には塗り切れぬ事情のあることを考慮すべきです。

以上の如くして——何等結論もなく——誠に雜駁な報告でしたが、物價高に關する調査集計の結果は之で一應

申し述べ盡した様な次第であります。

一一 工場その他への出稼

右の外に猶—農家の經濟や物價高の問題に直接の關係は持ちませんが—二、三調べた事項がありますので、集計済みのものを簡単に次に附け加へさせて戴きませう。その一つは工場その他への出稼調べです。

出稼も、その定義付けでもすると中々面倒なものです。極く常識的な意味に解釋して戴いて先づ最近に於ける出稼者の數をみますと—次表に見られる如く—總數百八十四人といふことになつてゐます。これは調査農家の中で最近自分の家から工場その他へ働きに出たものがあるといふ回答百七十三戸の農家からの出稼者の總數です。従つて、出稼者のある農家は調査總農家の二割二分に當り又、出稼者のある農家では一戸平均一人一分の出稼者があるといふ勘定にもなりますが、それはさて置き、出稼の月別員數をみますと次の表の通りです。

第一六表 工場その他への出稼

(一) 最近の出稼者數

北海道	出稼の月別に よる 員數												合計 出稼 員數	備 考		
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			前年	
一														一	二	

全國	九州	四國	中國	近畿	東海	東山	北陸	關東	東北
二三	四	一	七	三		五		三	
一五	五		一	二			四		三
二〇	二	一	二	六		三			五
二四	一	二	二	三	四	一	二	二	七
七	二	一	一	一	一				一
一一	一	一		三		一	一	一	四
九	一	一		一	二		二	一	一
二七		八	三	七	一	一	二	一	四
九	一		二	二		一		二	一
三					一			一	一
一									
三		一						一	一
三一	二	一		一	四	一	一〇	一〇	一
一八四	一九	一七	一八	二九	一四	一三	二一	二二	二九

(備考) 本調査の時期は八月乃至九月現在なる故、本表に表示の九月の或部分及び少くも十月以降は、寧ろ前年中に含ましめるを至當とす

これは、いつ工場その他へ働きに出たかの月別調べでして九月以降と五、六、七月の員數が少ないのですが、

全國的調査集計の結果

備考にも記してあります様に本調査は八月乃至九月現在の調べでありますから、九月或はそれ以降は當然前年の分に含ませねばなりませんので、素よりハッキリしたことは申せませんが、所謂農繁期と農閑期との時期の差が出稼者の數に可成り大きな影響を持つことを察知し得るのであります。然し、より大きな關心は出稼者の内容やその所屬農家でして、甚だ簡略ながら集計の結果は次の表にみられる如くです。

(二) 出稼者の内容及びその所屬農家

道	性	出稼先別員數			出稼者の所屬農家戸數			備考
		工場	其他	合計	自作農	自作兼小作農	其他の家戸合計	
北海道	男 一			二			二	
東北	男 一六			二九	一	五	二	
關東	男 一〇			二二	二	五	二	
北陸	男 一二			二一	二	四	一	
東山	男 五			一三	一	四	一	
東海	男 一〇			一四		六	四	
近畿	男 二四			二九		八	二	
	女 五			一六		一七	二	
				一三		一七	二	
				一六		二七	二	

道	男	女	合計	自作農	自作兼小作農	其他の家戸合計
中國	一五	三	一八	七	九	一
四國	一四	三	一七	六	八	二
九州	八	一一	一九	五	一三	一
全國	一一五	六九	一八四	六	四八	一七三

即ち、出稼者百八十四人も之を性別にみますと男百十五人、女六十九人で比率にしますと凡そ六對四の割合になつてゐますし、工場への出稼と其他への出稼は員數の比率が丁度これと逆になつて略々四對六の割合になつて居ります。其他の内容は區々でありますが、こゝには別に觸れずに、更に出稼者の所屬農家——つまり、どういふ農家から工場その他へ働きに出たのか——を調べてみますと小作農家が——百〇七戸で——最も多い。が、調査農家の中で占める小作農家の割合が甚だ高いのは既に御承知の通りでありますから之は當然のこと、寧ろ自、小作別の調査農家に對する出稼者の所屬自、小作別農家の割合にしてみるのが至當で、この割合にして計算しますと自作農が一割四分、自作兼小作農が二割、小作農が二割二分、其他の家が三割八分で、小作農より其他の家の方がより多くの出稼者を出してゐるのです。最近一年ぐらひの間に五軒に一軒、三軒に一軒といった工合に出稼者のあることは——單なる數の上からも——さう輕々しくは見過ごされぬ様に思ふのです。

一二 銃後の御奉公

最後に、も一つ銃後にあつての御奉公を自發的に全く自由に記入して貰つたものを整理しました。これも回答記入が區々で、適當な整理も困難なのですが一應次の如く取り纏めました。回答總戸數は六百六十一戸で調査總農家の八割三分に當りますが、残りの百三十三戸もたゞ——どの程度のものを回答してよいのか判らず——記入しなかつただけのことで、當然夫々何等かの形で銃後の御奉公を致し居るものと見るべきであります。

第一七表 銃後の御奉公

	北海道		東北		關東		北陸		東山	
	祈願	歡送	餞別	慰問	慰問金品	勞働奉仕	乾草	國防	寄附	其他
東山	一	三	四	五	二〇	二一	三三	四	一一	一一
北陸		一五	三六	六	一一	三九	二二	三四	六	一一
關東	五	九	六	一一	一一	一二	二〇	三三	五	一一
東北	一一	四五	一三		一八	五	一〇	一四	二七	九
北海道						一八	一	一二	四	四
以上事項數計										三九
回答戸數										二六
備考										其他は銃後々援會役員等
										其他は分會役員、千人針等
										其他は役員、千人針等
										其他は後援會等

東海	近畿	中國	四國	九州	全國
五	一〇	四五	一三	二	九二
一〇	六	一四	一二	一〇	一一二
一四	二六	一二	六	一八	二四一
一	五	一六	九		三三五
一〇	四五	二六	一二	一三	五三一
五	四一	一六	二二	一〇	一六六一
一	八〇	九	三七	二	一八九二
	三〇	一〇	三五	二二	二五一
一	二六	七	二	二	一九四
一三	一一	七一	一	一	八六
六〇	二八〇	一六二	一四九	八〇	七三三
三六	一三〇	六九	七〇	三七	三三七
其他は後援會加入、乾草は飼料獻納	其他は役員及び千人針	其他は千人針			

右の事項別——これも一戸一事項に限らず、集計の結果からすると平均一戸二事項の割合になつてゐますが——總(件)數は千三百二十七(件)であつて、この中最も多いのは乾草獻納の二百十五(件)で總(件)數に對して一割六分に當ります。これに匹敵するものは國防獻金の百九十四(件)、勞働奉仕の百八十九(件)で夫々一割五分、一割四分となつて居り、慰問金品の項は慰問と合算するならば二百十九(件)で乾草獻納より稍々多く割合にするに一割七分になります。その外、餞別、歡送、祈願等も——北海道の如く全く之を缺くのは、その事實が無いのでなく前述の如く、たゞ記入しなかつただけのことだと思ひますが——大體、七分から一割の程度となつて居ります。斯く、銃後にあつての農家の御奉公は、各種の形に於て自發的に誠に力強いものゝあることが痛感されます。

のであります。

結 び

上來、各地區別に又全国的に調査集計の結果を御報告致しましたが、それは専ら農家經濟近況調査票の集計結果を申上げたのでして——初めの頃に申述べた、本調査の輪廓の質問票の内容に示しました——農村事情近況調査票のことには殆んど全く觸れて居りません。それは農村事情の調査票は——それだけで既に獨立した一票をなしてゐるので、従つて機會が御座いましたら、切り離してこれだけの集計結果を御報告致しましても大變有意義なことと存じますが、こゝでは——それを農家經濟調査の本當の活用の爲に専ら用ひたからであります、つまり、調査村がどんな村か——生産、販賣、購買がどんな工合になつてゐるか、村の近況についても物價高その他がどんな事情になつてゐるか——と一應村の概念を掴んでから調査農家の集計に採りかゝり、又、調査農家の記入で誤記と思はれるもの或は判斷の付き難いもの等について、これを参照して出来るだけ正鵠を期したのであります。尤も、よりよく之を利用しようとするなら、例へばその村が稲作を主とするか畑作を主とするか或は養蠶を主とするか等によつて村を分け、さうした村別に農家經濟調査を再集計してみること出来る譯ですが、爲念、農村事情近況調査票でどんな答が得られたかを——岐阜の一農村の調査票によつてそのまゝ——一例として次に示してみませう。

○村の主なる生産物は何か

米	三、六五五石	一一一、四四三圓
蕎麥	一四、七七四貫	六一、七九六圓
小麥	八〇一石	一四、〇九七圓
甘藷	一〇八、四四五貫	一三、〇一三圓
薑	一七、〇二〇貫	六、八〇八圓
里芋	二七、四五〇貫	五、四九〇圓
大豆	一、〇二一石	八、八八二圓
蔬菜	—	約一〇、〇〇〇圓

○耕地と農家の關係はどうか、一戸當り面積はどれ程か

全村總戸數	一、〇二二戸
農家總戸數	六九九戸
(内、本業六一八戸、兼業八一戸)	
田	二五五町四反(内、他町村に約八〇町)
畑	二八二町(内、他町村分約一二〇町)
一戸當りは七反九畝(内、田三反六畝、畑四反三畝)	

結 び

○主なる販賣物は何か

繭	六一、七九六圓
米	一九、七五八圓
茶種	一四、三〇〇圓
小麦	一四、〇九七圓
大麦	八、八八二圓
薑	六、八〇〇圓
甘藷	一三、〇一三圓
里芋	五、四九〇圓
蔬菜	一〇、〇〇〇圓

○主なる購入品は何か

肥料	四〇、〇〇〇圓
米	三八、四〇〇圓
煙草	三六、〇〇〇圓
酒	一三、四五〇圓
醬油	七、六九〇圓
砂糖	二、二二〇圓
味噌	四、七九〇圓
呉服	七二、〇〇〇圓

(肥料以外は非農を含む)

○一般に出稼の慣習があるか、どんな種類か

本當の意味での出稼は無いが、街に近き故、鳶職、大工、左官、土工等の働きに出るものあり。

○近年小作条件はどう改善されたか

嘗て(大正十一年)掬下げ、近年は作離料の慣行あり。

○最近の物價高は農村經濟に、どうひびいてゐるか

村財政には納税にひびき、農家經濟には肥料の値上りが強くひびき、又農家の六、七割が米を買つてゐるの

で推察されたし。

○土地價格の騰貴や小作料の騰貴はないか、どの程度か

街では騰貴(一割以内)の傾向があるが、街を離れては賣買殆んどなし、小作料は高まる傾向あり。

○都市又は附近工場への最近の出稼傾向はどうか

前述の如く村ではなし。

街では左の如く、出稼調べあり。

紡績	二三(男)	一一(女)	一三四人
工業	六(男)	—	六人
店員	四八(男)	—	四八人
女中	—	四(女)	四人
戸内使用	一三(男)	四(女)	一七人
農耕	一(男)	—	一人
雜業	二二(男)	二(女)	二三人
計	一一二(男)	一一一(女)	二二三人

○最近附近工場の新設又は増大によつて小作關係に影響を及ぼしたことはないか
工場の新設なし。

○農村工業の實情はどうか、その賃銀はどうか

傘の外に採り立て、見るべきものなし。

傘骨仕上げ等 賃銀一日一人二十錢乃至五十錢

傘骨糸飾り 女一人一日十錢内外

○農村更生はどう進んでゐるか、特に負債整理はどうか

農會技術員指導の茶種共同出荷、蔬菜栽培の改善等。

信用組合の活動稍々復活す。

○その他

銃後協會の活動。

村有、部落有財産殆んどなし。

右の様に特にこゝに一農村の事例を掲げましたのは、この村では據るべき適當な資料がとゞのつて居らず、農會技術員の協力を得て何回か努力して調べあげたといふ報告者の苦心の調べを示しますと同時に、何が何十何貫、何が何十何圓と——それは時に机上の數字にとられ過ぎる嫌も御座いませう——細かい調べでなくとも、凡そ頼るべき正確な資料が何時でも得られるやうにしてあることが、どの村にとつても——村の更生の上にも——誠に望ましいことであるのを此の際特に申し上げたいと思ふ次第であります。

さて、今回の農家經濟調査を顧みますに色々不備の點の多かつたことに思ひ及ぶのでして、質問票につきまして二、三氣付いた點を申上げてみますと、先づ耕作地の面積と借入地の面積とは聞いたのですが自作地の面積が聞いてありません。それは——前者から後者を差引けば自然自作地の面積が判る譯で——忙しい農家の手をつでも省きたいといふ善意から敢て聞かなかつたのですが、集計を致して居りますと耕作地と借入地とが餘りにピッタリと合致し過ぎてゐるものや、たしかに自作地がありさうに思へてどうも勘定の合はぬものなどに間々出會ふのです。自作地の項目が有らうが有るまいが——大體——農家としては、あそこが幾ら、こゝが幾らと數へ合せて全耕地の面積を記入するのでせうから、合計から内譯を記すのでなく、内譯から合計を記すといふ行き方で、自作地面積の一項を起して置いた方が、より實際的で——而も苦勞もなく——正確を期し得たかと存じます。次に主なる収入についても、金額の大きなものゝ順位だけでなく、その金額なり數量なりを——極く凡そのでも——聞いて置いたら宜かつたと思ひます。精確なことは素より期待し得ませんが、これが聞いてあると順位もハッキリし、あとの販賣關係例へば何を幾ら賣つた時といふ質問にも關聯させて可成り参考になつたと考へられます。殊に、米の賣り買ひについては數量の片鱗が示されて居りますので随分役立つことゝ今更ながら悔いられます。更に、この米の調べに關聯しては調査農家の各員數を聞かないことも一つの手落ちで、假令直接的な關係がなく手落ちでなくとも、農家の經濟調査で家族員數の一項を缺いたについては——それ相當に辯明の理由が在るにもせよ——確かに不備は不備として、卒直に自らその到らなかつたことを認め今後の戒めにも致し度いと存じます。

續いて物價高の調査につきましては——同様、色々足らなかつた點を認めなければなりません——この調

べが物價高そのもの、調べでなく、物價高に對する農民の氣持ち意見、謂はゞ農民の心理的方面に調査の主眼點を置いたことを特に御斷り申上げて置きたいと思ひます。極く端的に申しまして、物の値上りそのものは物價指數や何かの資料で大體見當付けられませうし、これと農村又は農家との關聯は——若し單純に農村を農家の集まりと解釋すればそれこそ一元的に——農家の賣るものと買ふものから凡その見當が付けられ、或は一步突き進みましても、地方農村の産業組合や農會あたりでお聞きすれば略々その事情が判明するやうに思はれます。農家の賣るものと買ふものとの主なる種類は、農林省の農家經濟調査等から容易に判る譯で、それが値上りで困る——農家が賣るものが高くなつて収入が増して自ら困るといふ筈はありますまいから、こゝでは簡單に農家の——買ふものが値上りして困るといふことにしてみても、さて困らぬ様、せめて元通りにするには何を幾らに下げたらよいかは自ら判る筈なのです。具體的な方法は中々直ぐには樹て難いにしても、對策の目安は凡そこゝに付き得るものと存じます。然し、さうしたことは一應本調査の範圍外に屬すること、こゝでは専ら農民自身の問題から捉へ、直接農家に聞くのでなくては判らない農民の心理的方面——若し前の對策に對照させるなら受ける方の側にあるもの、氣持ち——の調べを致したのであります。例へば、最近の物の値上りを何時最初に知りましたかといふ質問にしても、記入されてある時が果して最初の經驗か或は二度目、三度目のものであつたか、それは定かでありませんけれども、兎に角記入してあるからには——或る程度——強く印象に残つたものが書かれたと想像されます。而も、その回答に農家購入品の——最も主な肥料の記入のみでなく、肥料以外の——こまかくしたものの、記入が相當見られましたことは可成り注意して戴きたいところで、何十圓といふ肥料の購入と並んで何錢かの隣寸が記されてゐることに心理的な微妙さを感じ、惹いて農家經濟の特質に思ひ及ぼすのも、あながち牽強附會な考へ過ぎとのみは申し切れない様に思ふのです。デスクワークからするものは先づ物のウェイトを考へ、物價對策にしても肥料その他主な二、三のものに限つて考慮が拂はれ、残された細かなものは何時も見落され勝ちな傾が御座いますが、實際問題と致しましては、案外かくれた小さなものにも十二分の思ひ遣りを以て考へませぬと本當に實情に即した對策は生れ出ない——のではないかと感じさせられます。物の値上りで最も困るものといふ質問にも、肥料以外に飯米などの記入が可成りに見られます。米を作る農家が又逆に飯米を買ふ——といふのは既に常識的な事實な——ので、米の値の上ることが常に必ずしも全農家の希望ではなく、或は又、賣るもの、値上りで——米でなく——麥の記入が殊に多いことなど右の事情と思ひ合せ、更に、水田小作の物納制にも考へ及んでみるならば心理的調査の微妙さが相當裏付けされる様にも思ふのです。猶、其他として掲げた質問につきましては、項目の不備ばかりでなく質問の仕方にも不充分で、回答する方も亦回答を整理する方も可成り不便を感じましたので猶よく考へ度いと存じます。

兎に角、今回の質問記入調査は全く——我々初めての——一つの試みで、従つて色々足りないところ不備缺陷の多いことは豫め覺悟も致して、それ丈に又、色々考へさせられ教へられるところが多く今後の研究、調査に幾多の示唆を與へられたと誠に有難く——御回答下さつた方々に特に——感謝致す次第であります。最後に一言右の集計結果を御覽になり或は更に、これから何か引き出して御考へ下さる方々に——老婆心からの蛇足に過ぎるかも知れませんが——二、三注意して見て戴き度い點を繰り返し申上げて置き度いと存じます。それは、この

調査が一つの試みとしての質問記入調査であり、農家經濟の近況が斯く在りと全面的に知らうとはせず寧ろ研究的に問題としてみる行き方を採り、而も、質問に對する記入を一切農家に委せましたので勢ひ農家の選擇が偏つたかと思ひます。そして、この調査の範圍は全國的に廣い範圍に互るとは申しながら、一府縣で二、三箇村——より正しく申しますと狙ひは部落——の調査でありまして、從つて各村々による特色が寧ろ強く出て、府縣の特徵とか各府縣間の差異などは餘り強調出來難い様にも思ふのです。調査の時期は十二年の八月乃至九月現在のものです。それから、調査の對象である農家のことについて、今も申しましたが——更に、質問に對して回答の得られるところに最大の眼目を置きましたので——埼玉の指定村とか、支所出張所に依頼とか、専ら組合を通じてとか、甚だ限られた部面のもので此の點特に考慮を要しますし、調査項目の後段、物價高の問題につき殊に意見や希望の回答をみる場合に餘程そのことを強く念頭に置いて御覽願ひ度いと思ひます。

以上、長々と取りとめもなく雜駁な報告を申述べまして甚だ恐縮で御座いました。若し、この調査の報告が何か少しでも御役に立ち得るならば誠に望外の幸で御座いますが、調査の内容なり仕方なりについて、これを機會に一つ皆様方から何かと色々御教へを戴き御鞭撻を戴くことが出來ますなら、それこそ私共として本當に有難い幸で御座います。

昭和十四年五月一日印刷
昭和十四年五月五日發行

定價金一圓五十錢

發行兼
著作權者

町田辰次郎

東京市芝區芝公園六號地
財團法人協調會

東京市王子區神谷町一ノ四八二

印刷者

松井方利

發行所

東京市芝區
芝公園六號地

協調會

電話芝一一三一—一一三六番
振替東京五三七〇四番

協調會刊行書目

最近の社會運動	拾貳圓
勞働法上卷	送料五拾七錢
勞働法下卷	送料五拾三錢
社會思想史	送料四圓五拾錢
各國勞働組合運動史	送料三十三錢
獨逸勞働組合運動史	送料二十一錢
勞働史講話	送料二十一錢
各國の社會政策	送料二十一錢
消費組合論	送料二十一錢
產業合理化と社會政策	送料十五圓
	送料六錢

英國產業の合理化問題	送料八拾六錢
英國に於ける失業及其對策	送料五拾六錢
獨・米に於ける失業及其對策	送料八拾錢
日本人口問題研究	送料十錢
日本人口問題研究 第二輯	送料五拾錢
日本人口問題研究 第三輯	送料五拾錢
ナチス勞働法	送料二十一圓
農村に於ける塾風教育	送料二十一圓
英國とその成人教育	送料八拾錢
	送料七拾錢
	送料十錢

協調會刊行書目

戰後歐洲土地制度改革史論	送料三十三圓
小作爭議地農村事情	送料六拾五錢
東北農業の研究	送料拾錢
工業保險及能率	送料三拾錢
川口鑄物業實地調査	送料十四圓
全國勞務懇談會記錄	送料七拾錢
全國勞働賃金統計	送料五拾錢
昭和勞働及勞働爭議統計	送料十五拾錢
昭和勞働組合	送料六錢
昭和勞働組合及勞働爭議統計	送料五拾錢
昭和各國勞働界の情勢	送料十圓
昭和各國勞働界の情勢	送料十圓
昭和各國勞働界の情勢	送料十圓

昭和各國勞働界の情勢	送料十圓
一九二八年海外勞働年鑑	送料五拾錢
昭和五年海外勞働年鑑	送料五拾錢
昭和六年海外勞働年鑑	送料五拾錢
昭和七年海外勞働年鑑	送料五拾錢
昭和八年勞働年鑑	送料十四圓
昭和九年勞働年鑑	送料十四圓
昭和十年勞働年鑑	送料十四圓
昭和十一年勞働年鑑	送料十四圓
昭和十二年勞働年鑑	送料十四圓
昭和十三年勞働年鑑	送料十四圓

協調會刊書目

獨逸國民高等學校運動	四拾三錢
我國に於ける勞働者教育の趨勢	拾五錢
工場鑛山に於ける教育施設要覽 <small>(昭和十年版)</small>	拾五錢
職長及職長指導者の教育	八拾三錢
工場に於ける職長の任務及教育	五拾六錢
本邦工場鑛山職長制度概要	五拾六錢
徒弟制度と技術教育	壹圓十四錢
農村計畫叢書第一輯	拾五錢
農村計畫叢書第二輯	拾三錢
農村計畫叢書第三輯	貳拾六錢
農村計畫叢書第四輯	參拾六錢
實地調査の農村生活	參拾六錢

農村問題解説叢書第一輯	貳拾五錢
我國に於ける農業委員會制度の話	拾三錢
農村問題解説叢書第二輯	拾五錢
農業保險の話	參拾三錢
農村問題解説叢書第三輯	參拾三錢
農村生活改善の話	參拾五錢
農村問題解説叢書第四輯	參拾六錢
農家負債整理の話	參拾六錢
農村問題解説叢書第五輯	四拾六錢
副業を中心とする農村工業化の話	四拾六錢
おいしくて農村料理	四拾六錢
榮養に富む農村料理	四拾六錢
井泉村基本調査	五拾十錢
農家労働調査報告	貳拾四圓
更生農家の模範的事例	壹圓十錢
慣行小作權に關する研究	壹圓十錢
吾過小農問題と共同經營	四拾六錢







776
72

